

383-130
1200501455194

383
130



始



75



中津町上水道誌



前町長 堀之内松十郎



前々町長 菊池平次郎



町長 大江富太郎



元顧問 澤井準一



助役 三木作次郎



郎太重田直 役入收

町會議員

東 岩二郎



町會議員

南 善吉



町會議員

美馬幸次郎



町會議員

久恒久太郎



町會議員

永松榮三郎



町會議員

久恒照明



町會議員
重松 献治



町會議員
村松 春馬



町會議員
安藤利 太郎



町會議員
糸園 又五郎



町會議員
永吉長 太郎



町會議員
烏澤 伊吉



町會議員 田澁廣吉



町會議員 西海宗太郎



町會議員 山口四郎



町會議員 中賢治



町會議員 菊池安之丞



町會議員 國分利一郎



町會議員

太田昌太



町會議員

岩田虎藏



町會議員

鷹雄吉藏



町會議員

泉豊秋



町會議員

久恒岩五郎



町會議員

藤澤朔雄



町會議員 竹岡吉太郎



町會議員 角善之助



前町會議員 野依曆三



町會議員 木村瀧義



町會議員 石丸鎮雄



前町會議員 中里眞清



前町會議員 山口 繁吉



前町會議員 花畑 壽吉



前町會議員 森久 嘉榮



前町會議員 加來 米藏



前町會議員 深尾 和吉



前町會議員 豊田 鏘太郎





前町會議員 北崎 秀三



前町會議員 筒井 健治



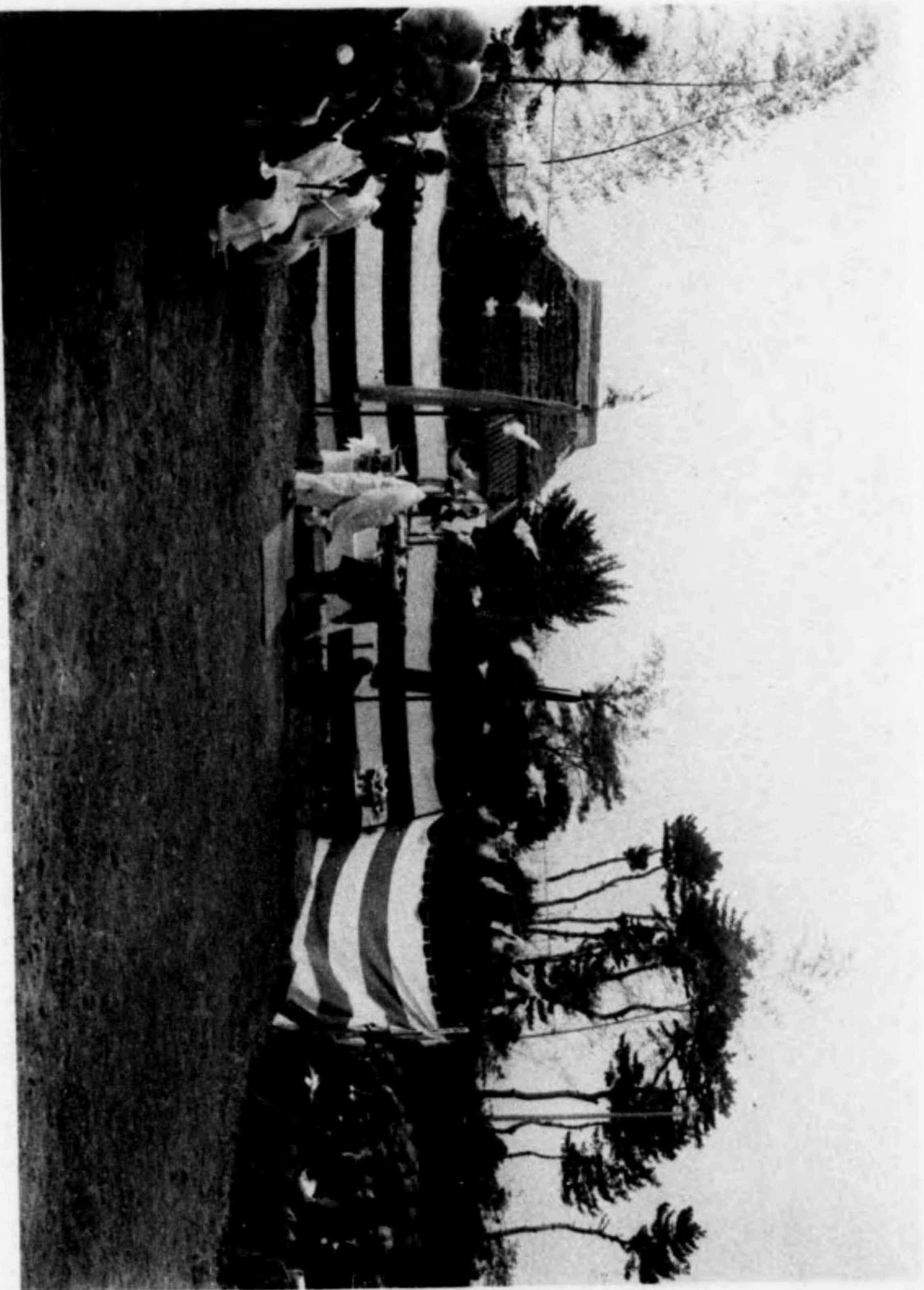
前町會議員 石黑 朝二



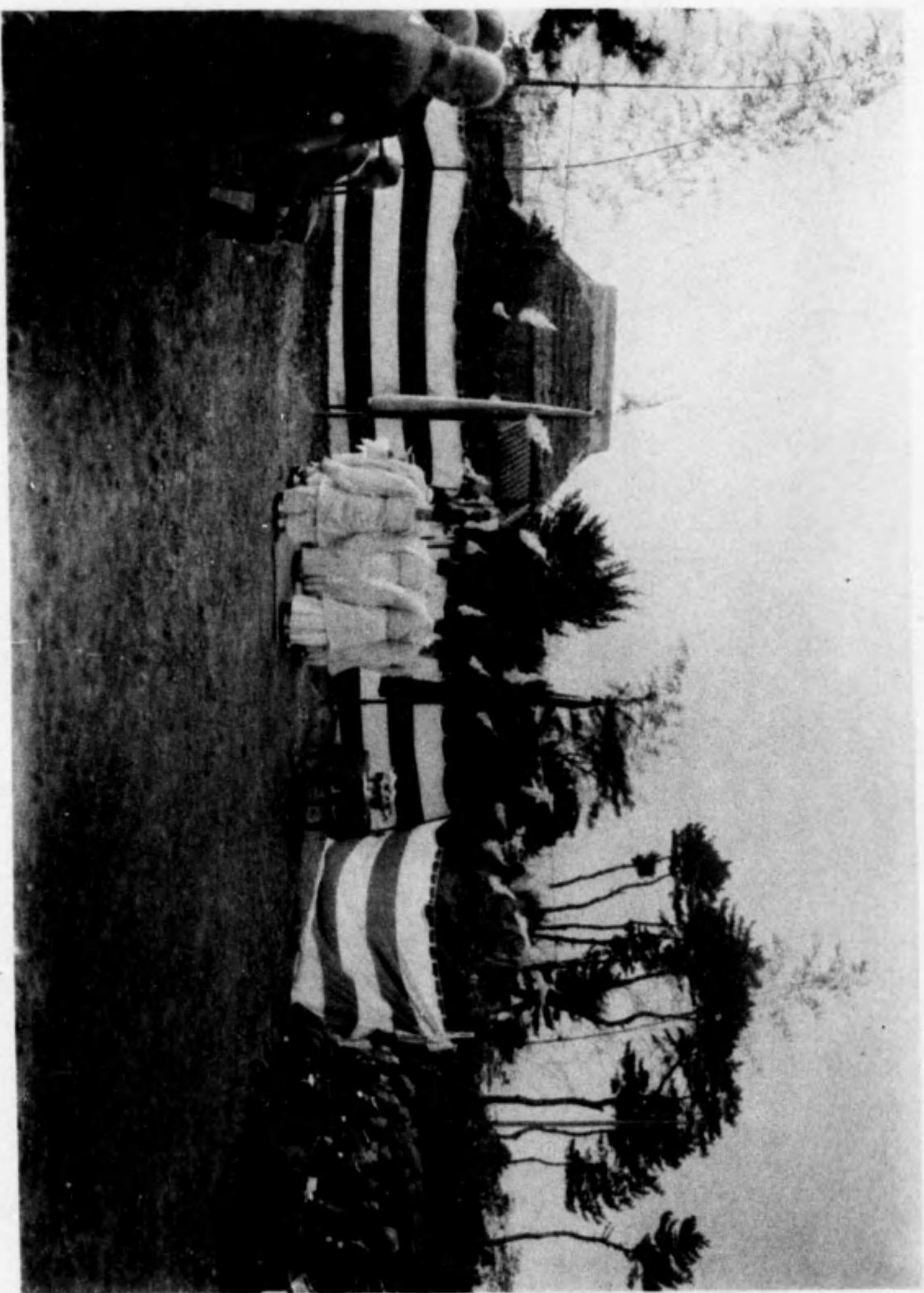
(員 職 課 道 水)



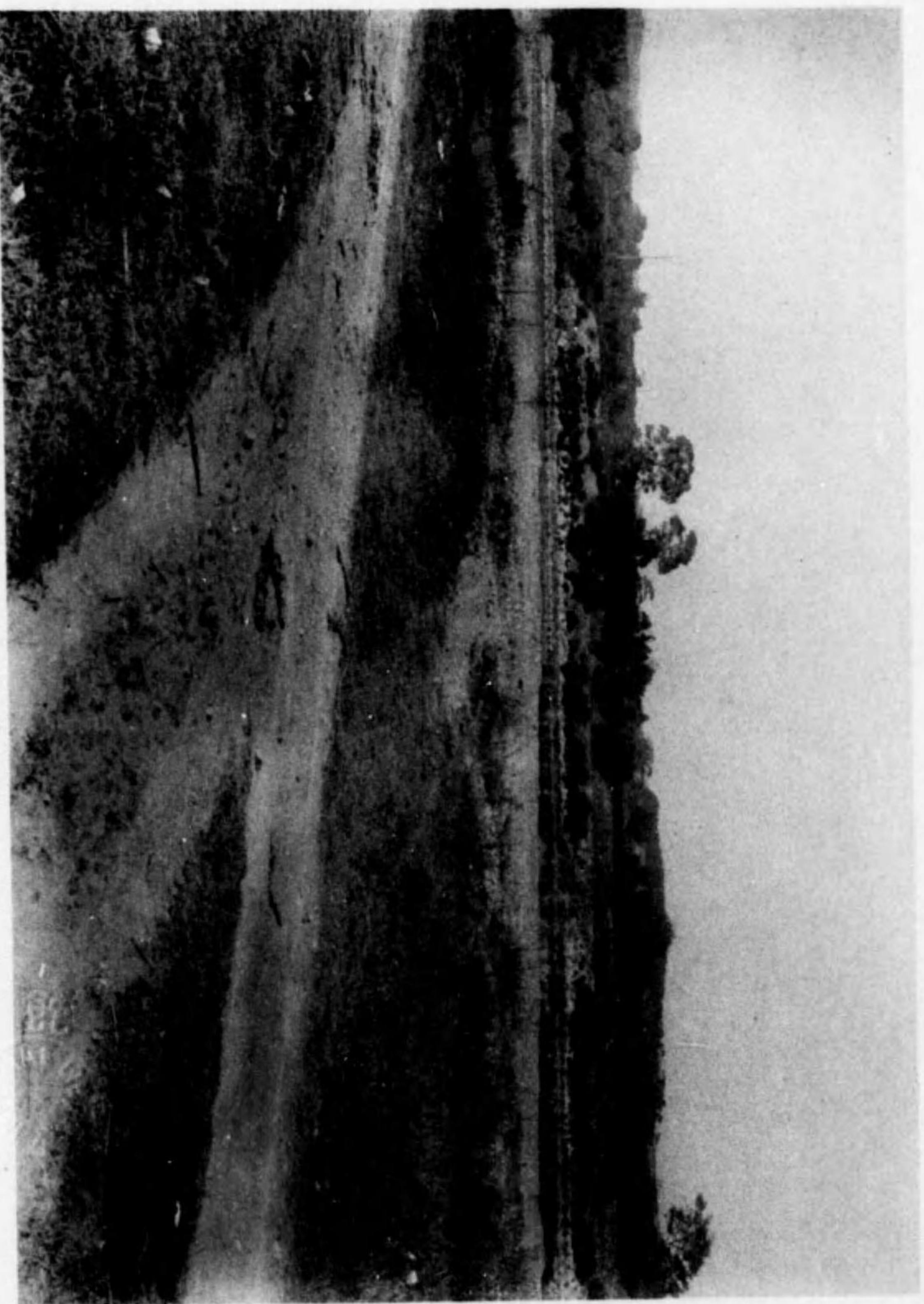
元技師長 北川 延彦



起工式一 (儀之初穿長町)



起 工 式 其 二 (齊 主 玉 申 奉 典)



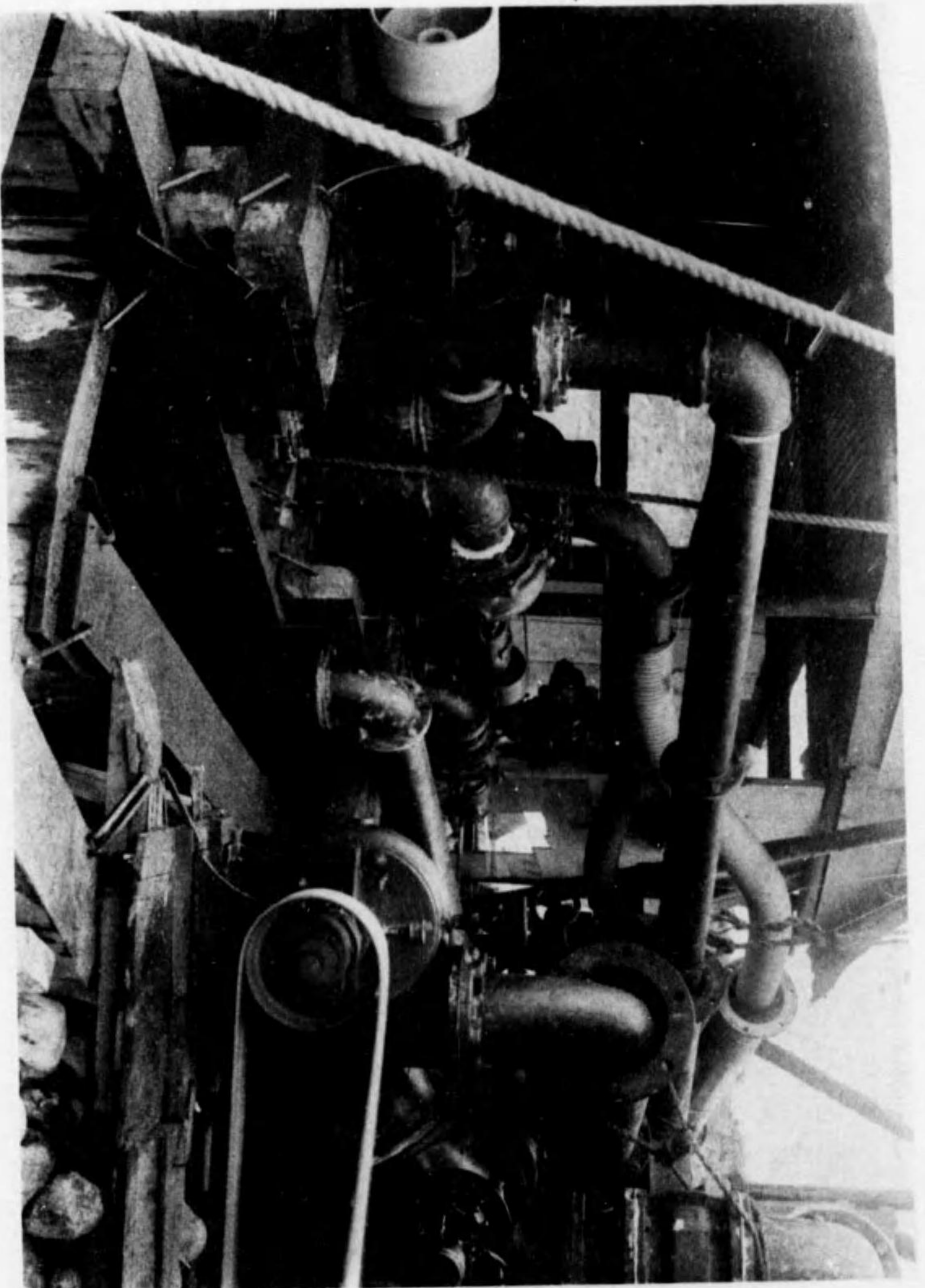
景全地定豫場水取



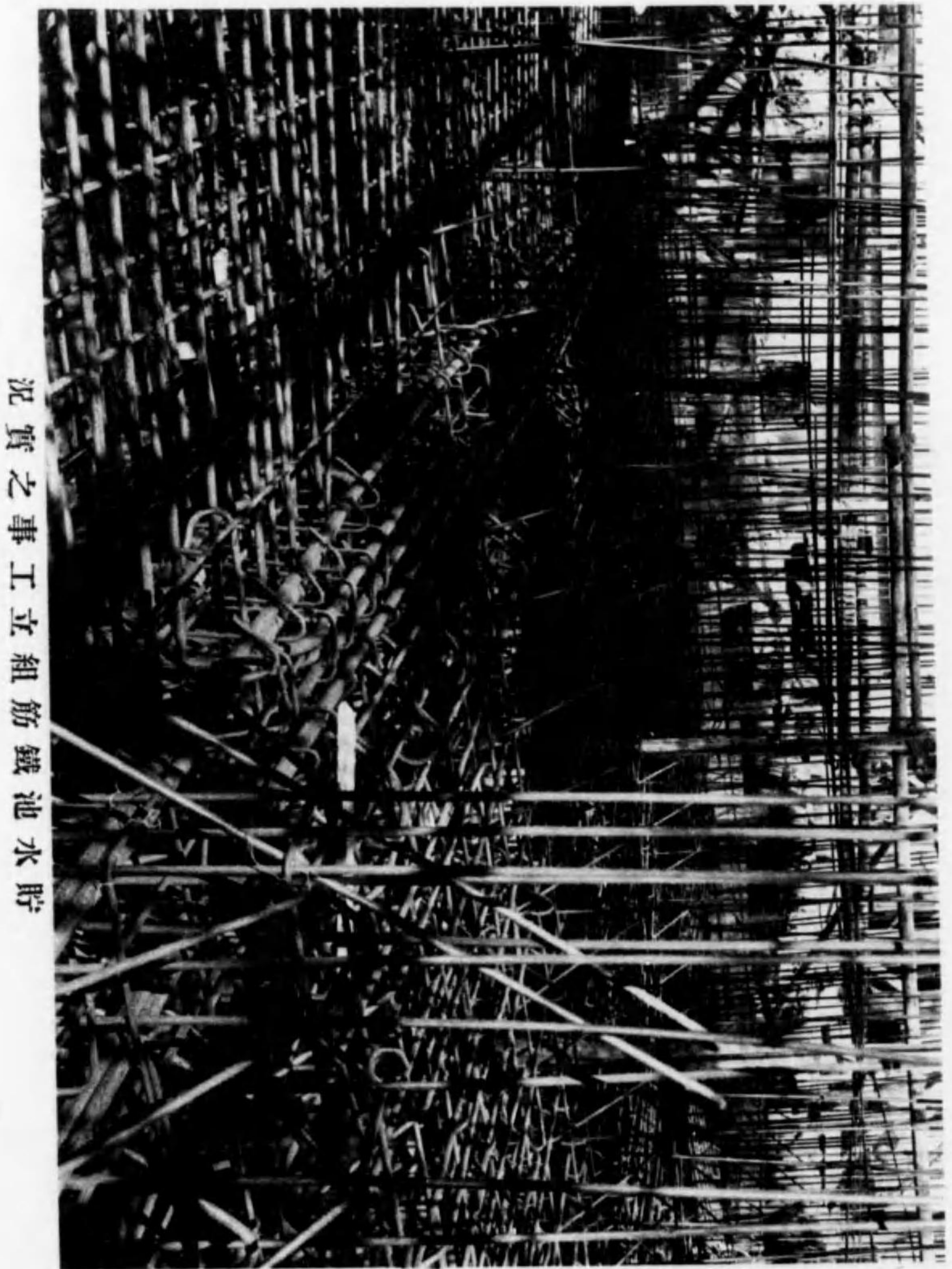
淨水場豫地全景



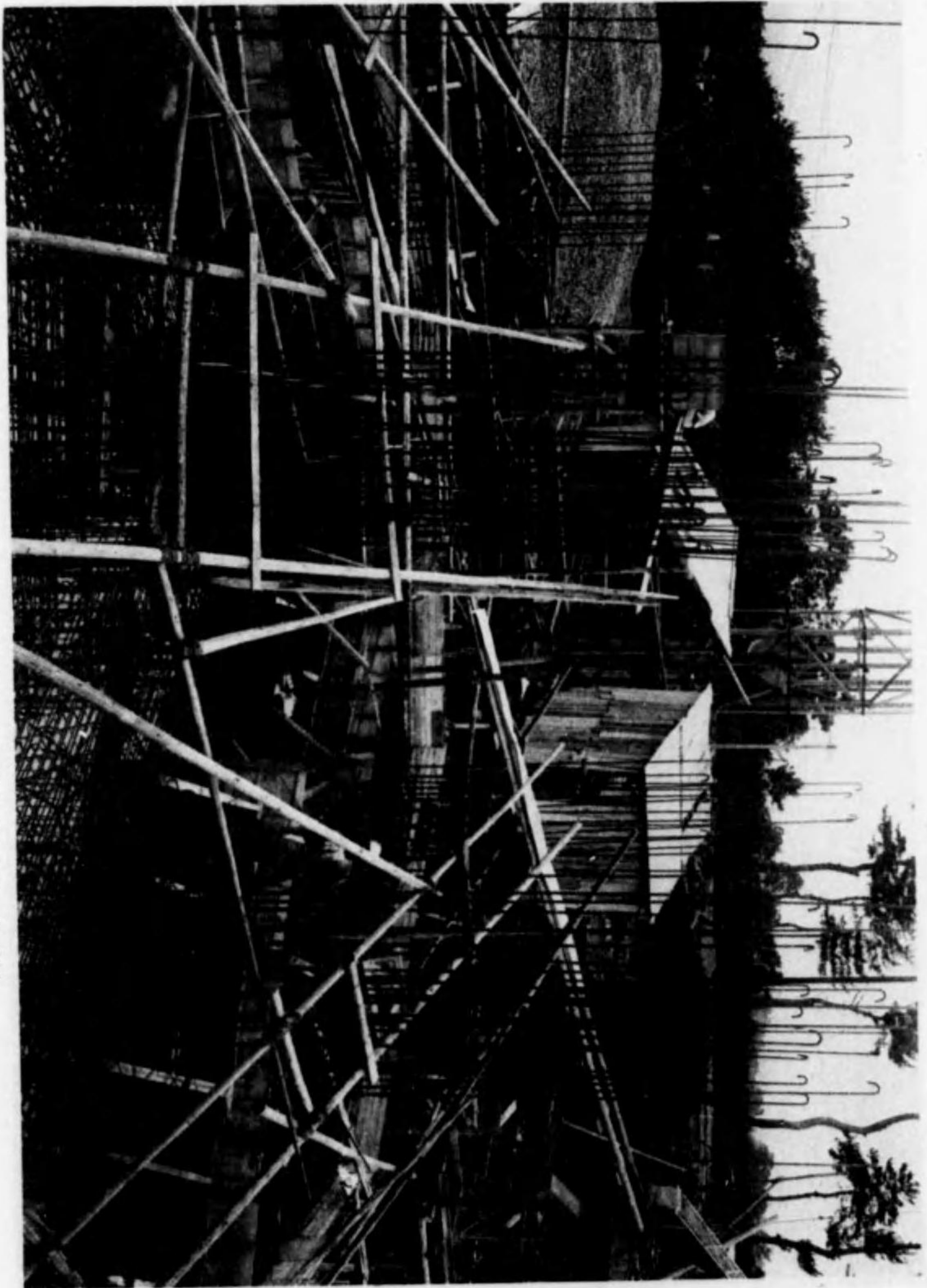
集水管埋設工事之實況



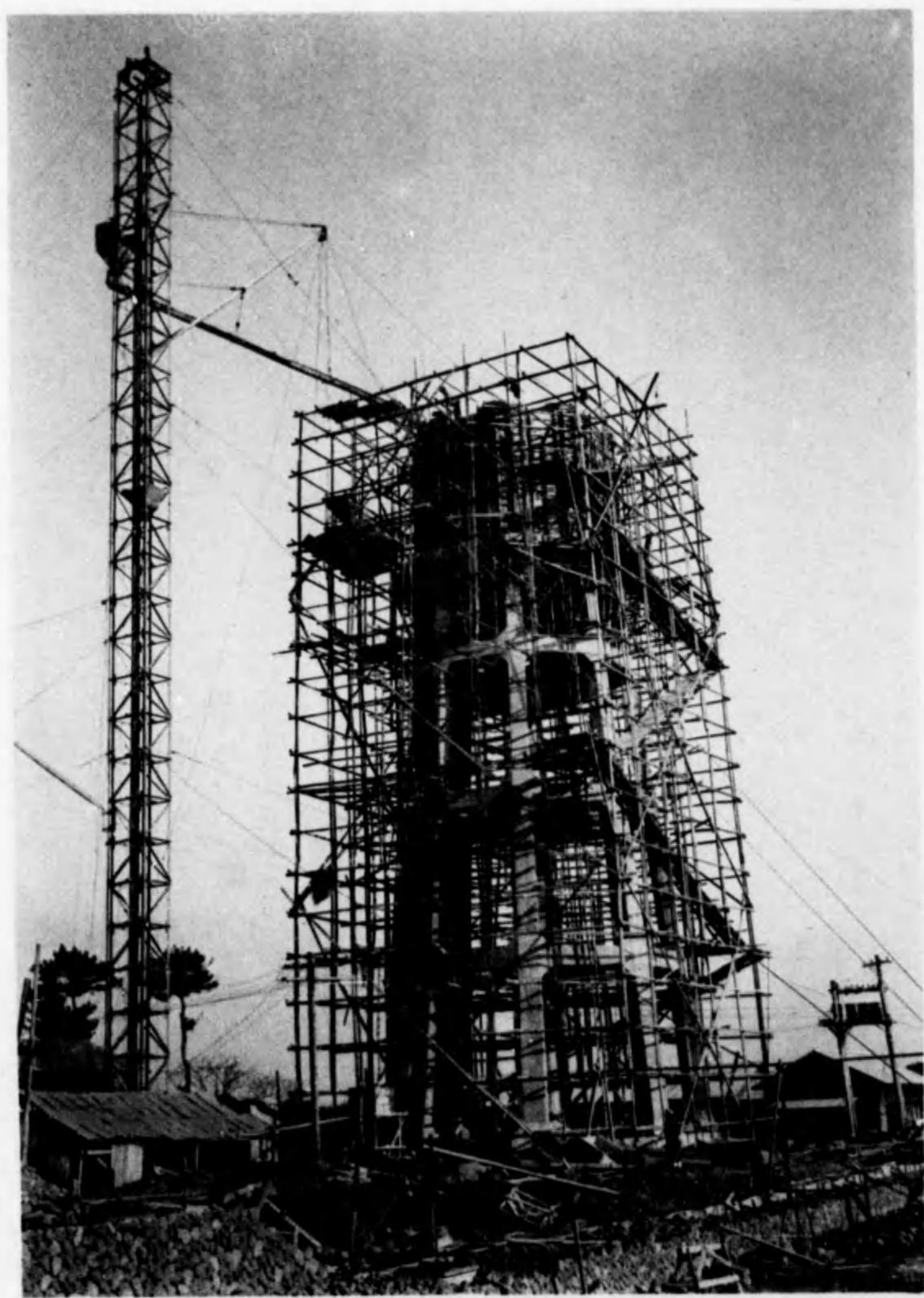
取水泵事筒運之實況



貯水池鐵筋組立工事之實況



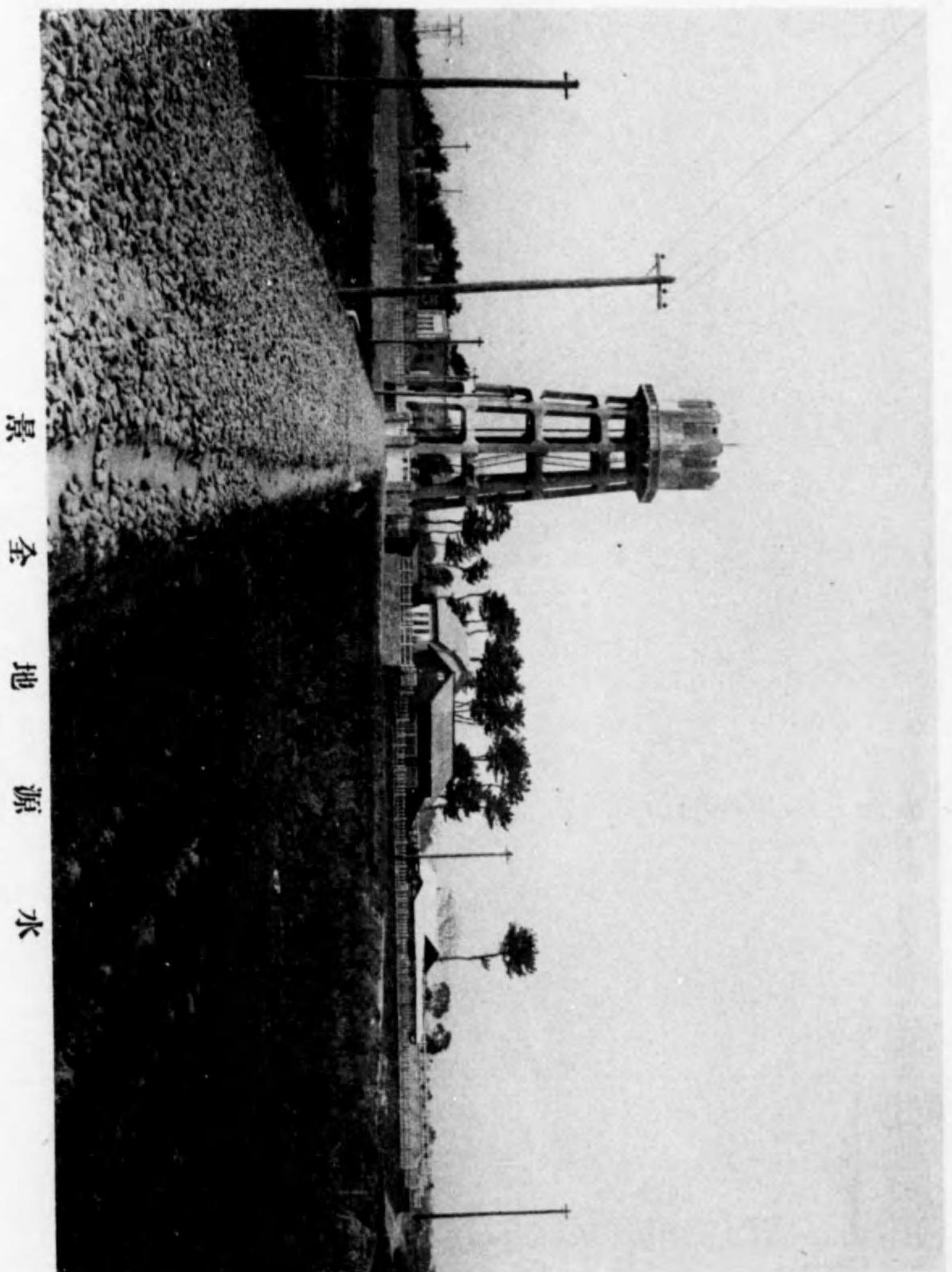
配水塔基礎鐵筋組立工事之實況



配水塔水槽混凝土工事之實況



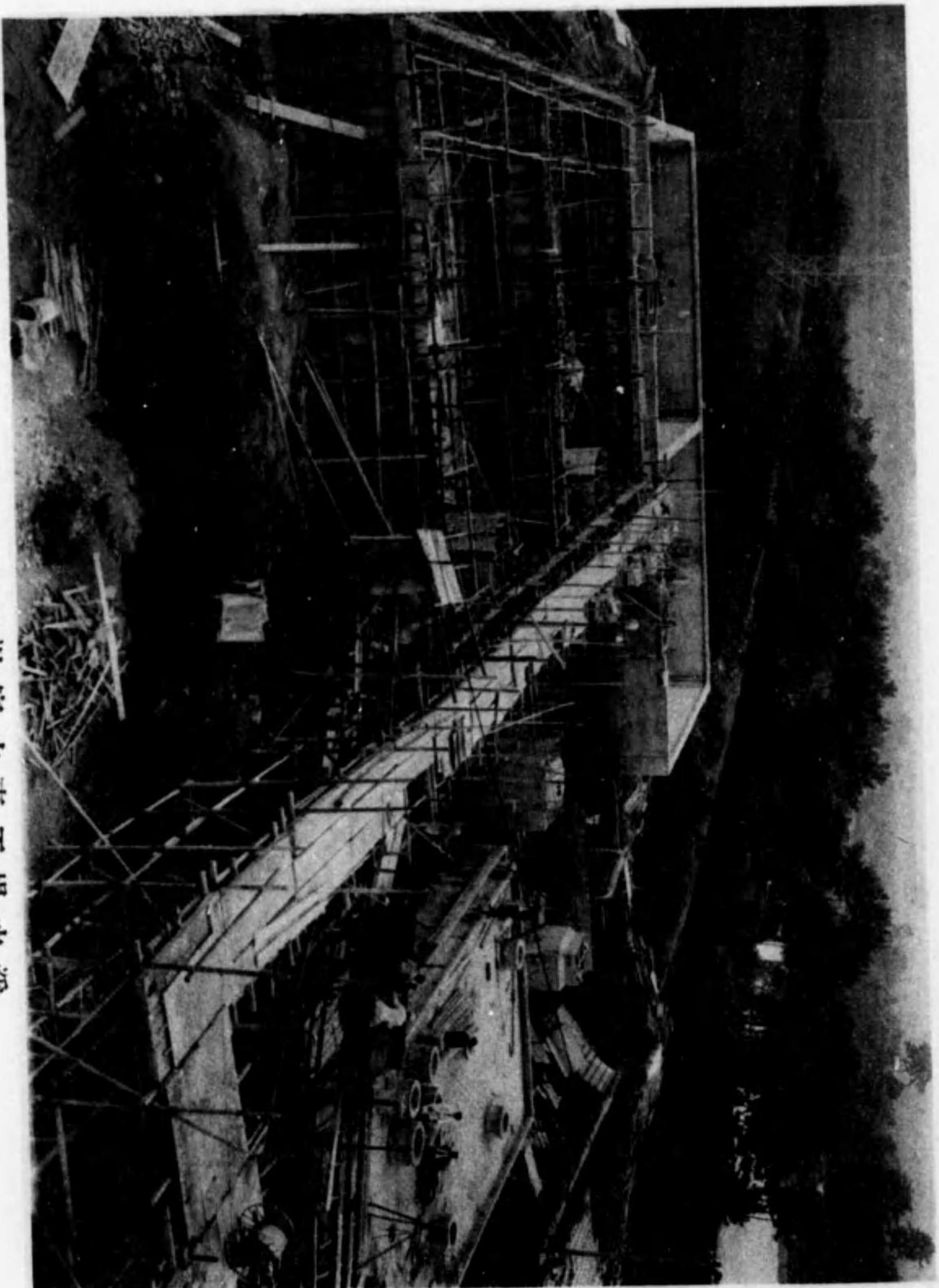
配水管施設工事之實況



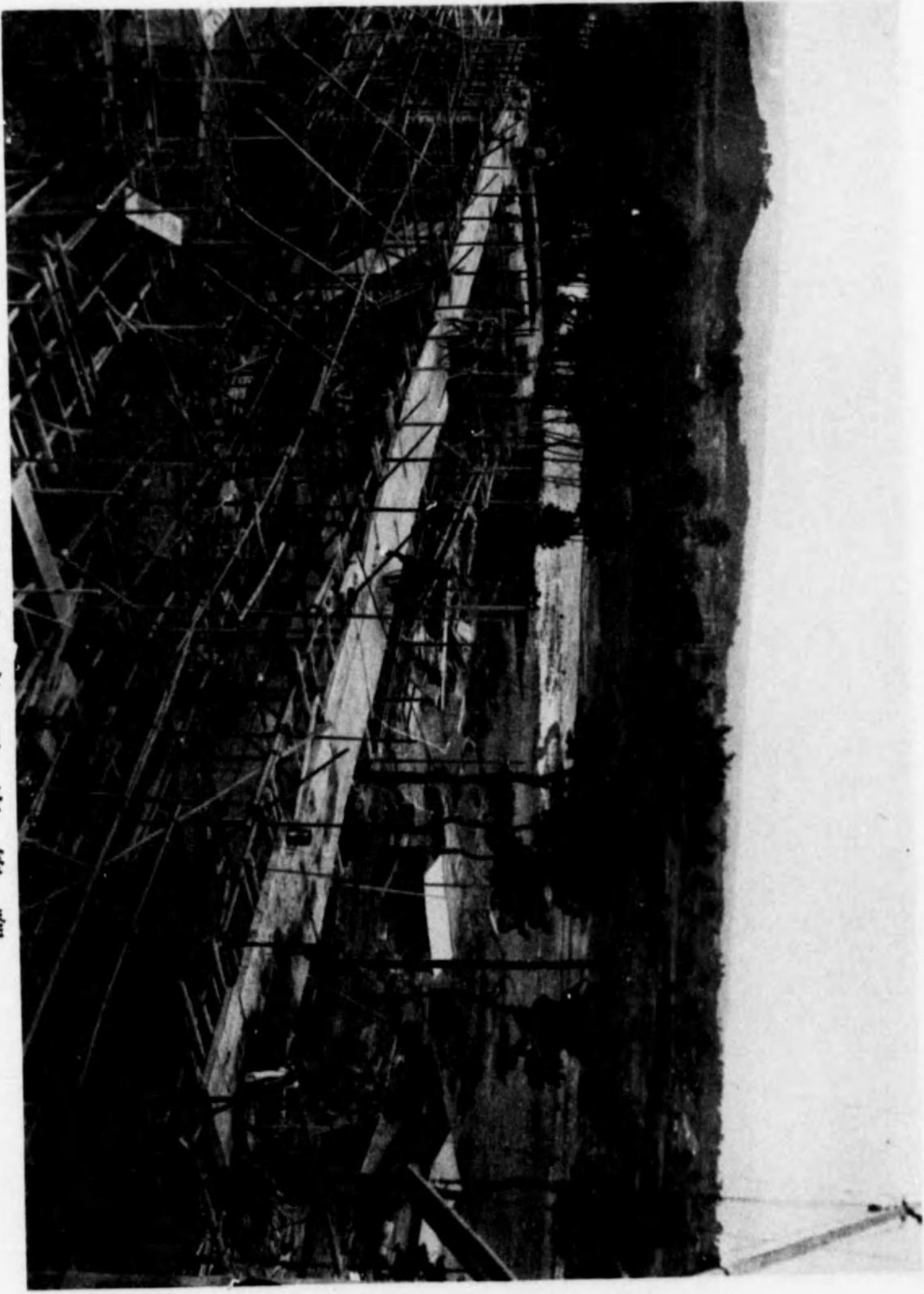
水 源 地 全 景



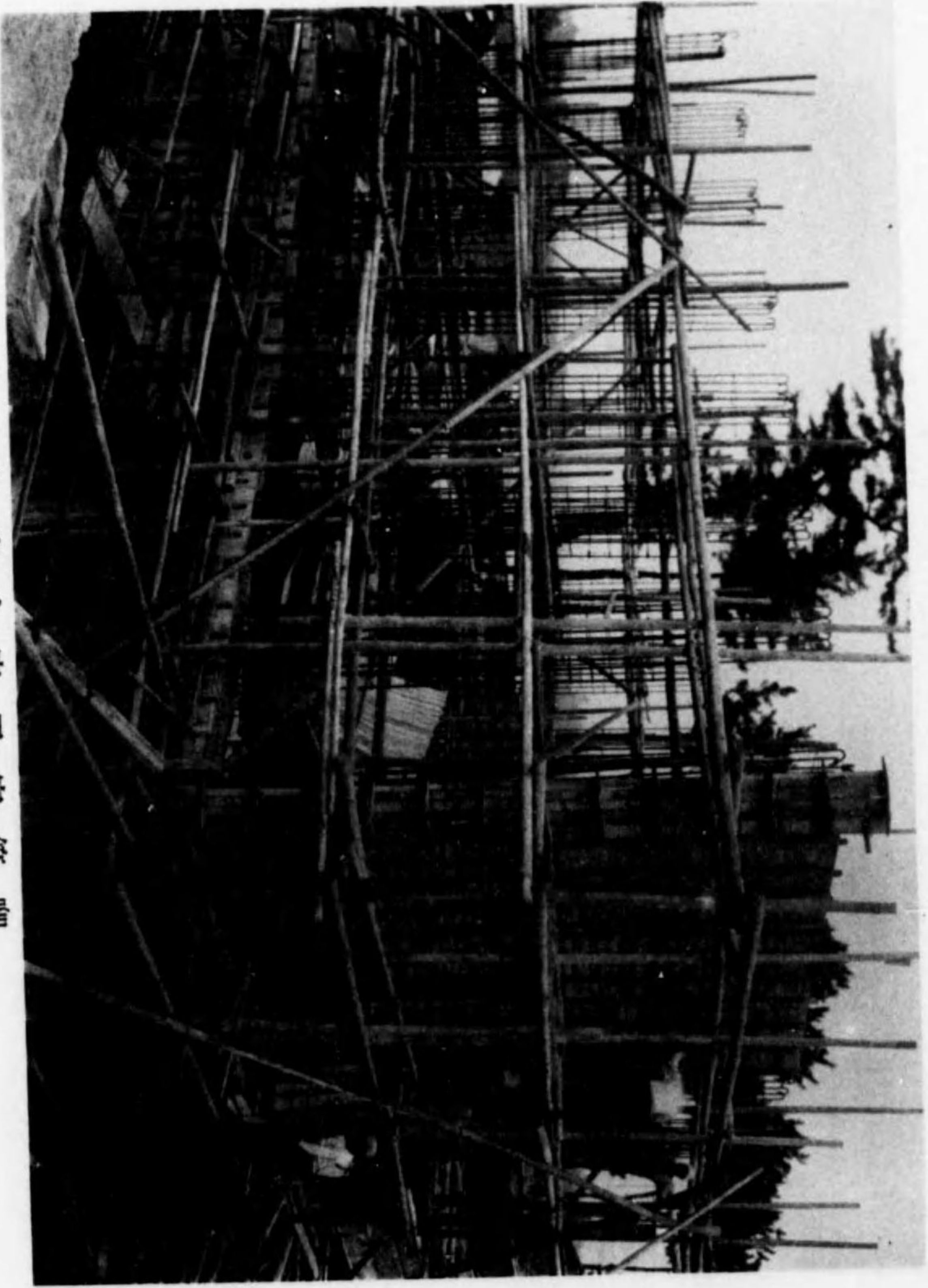
導水管埋設工事之實況



淨水工場之實況 (澁池貯水池) 仰筒場



一 其 況 實 之 事 工 室 筒 唧

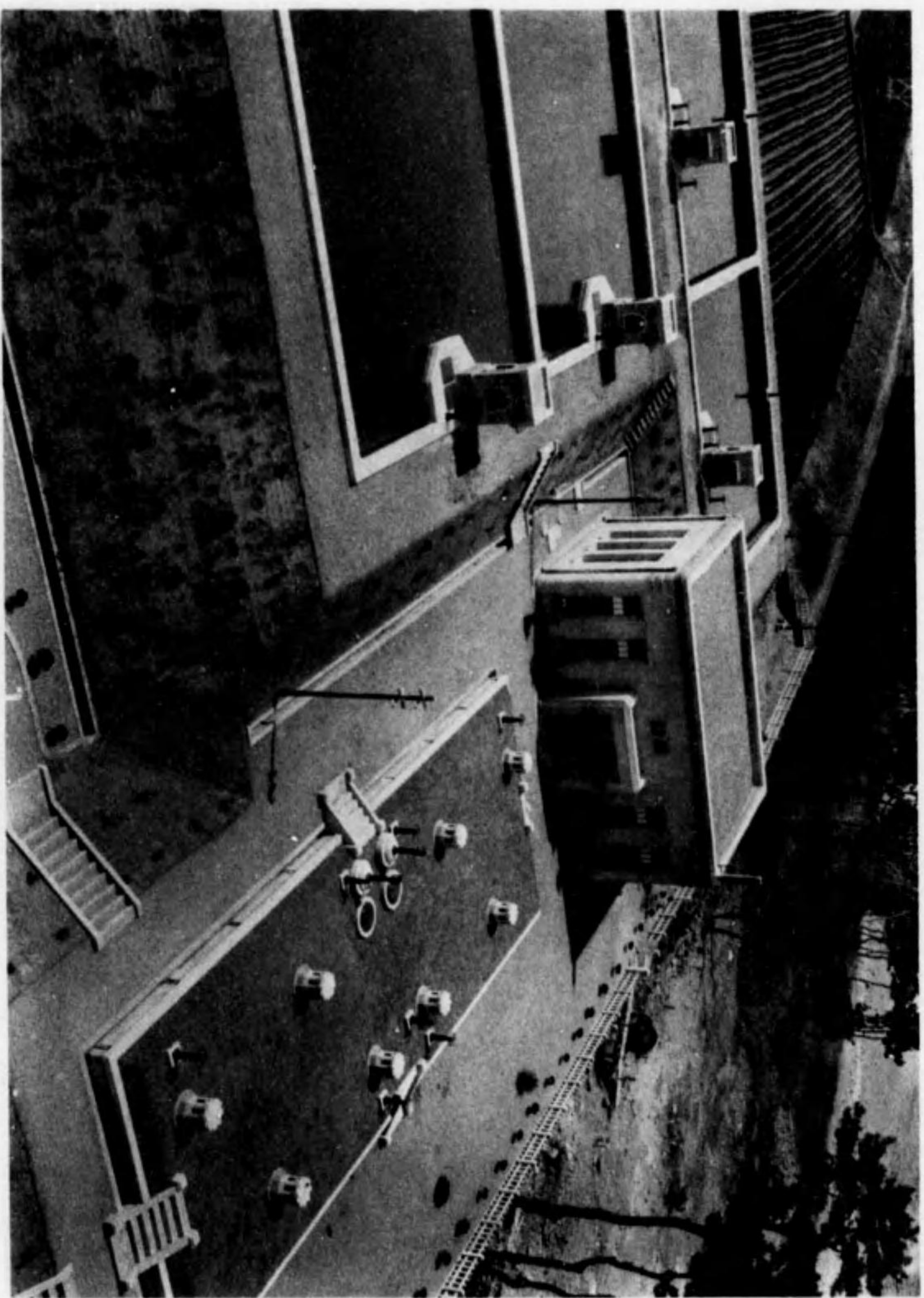


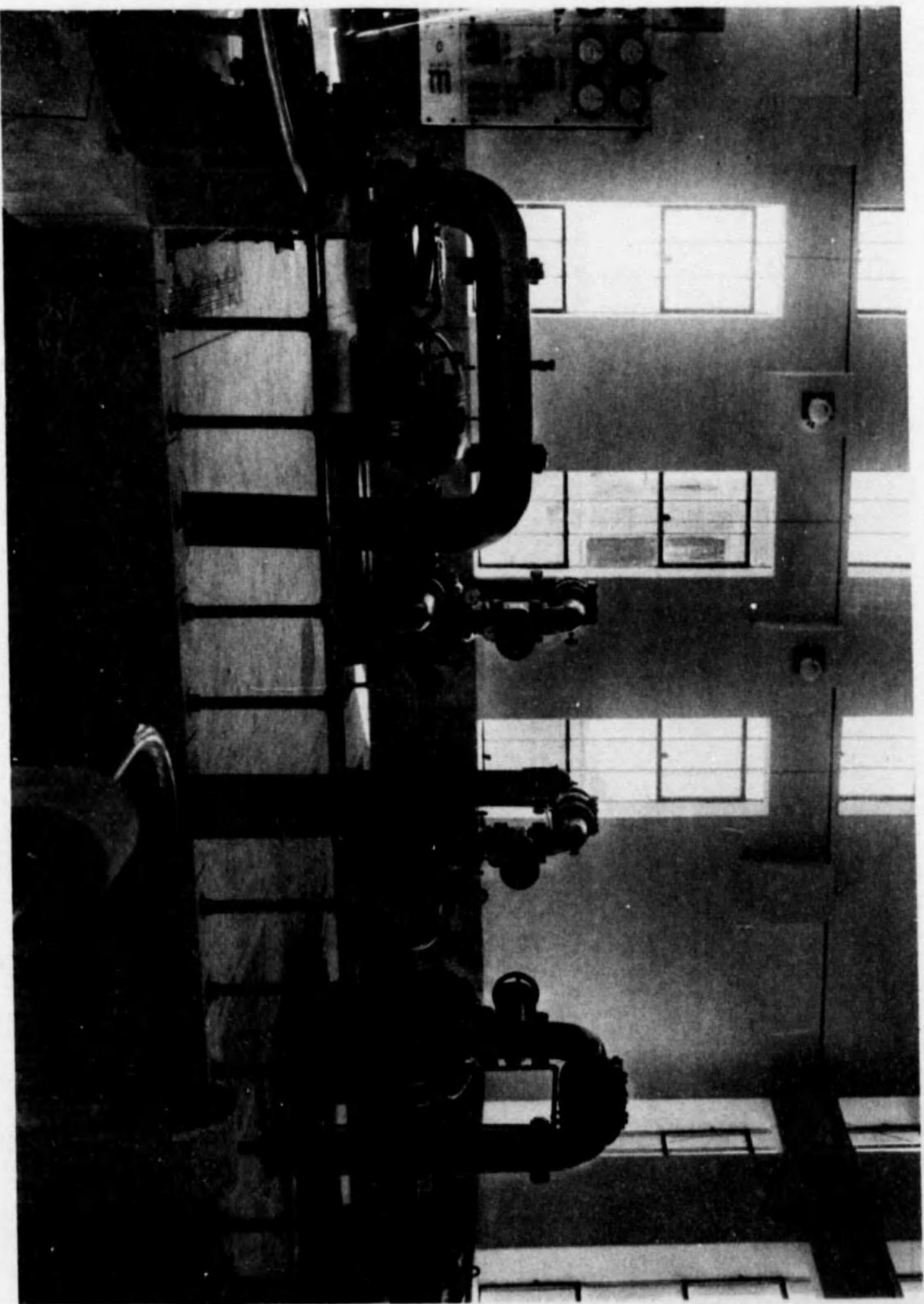
二其 泥 實 之 事 工 室 筒 唧



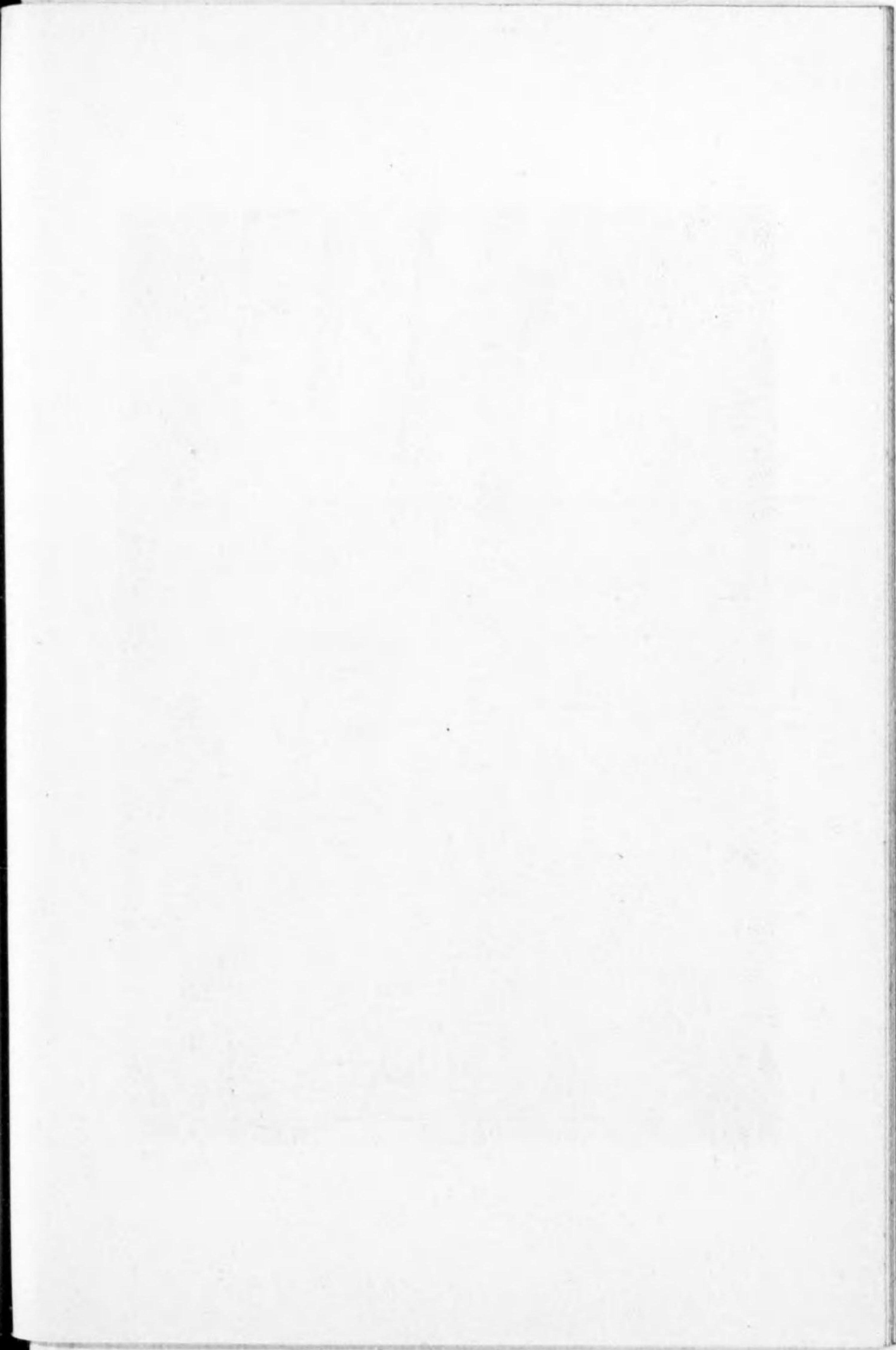
濾過池底部防水工事之實況

場筒唧·池水貯·池過濾



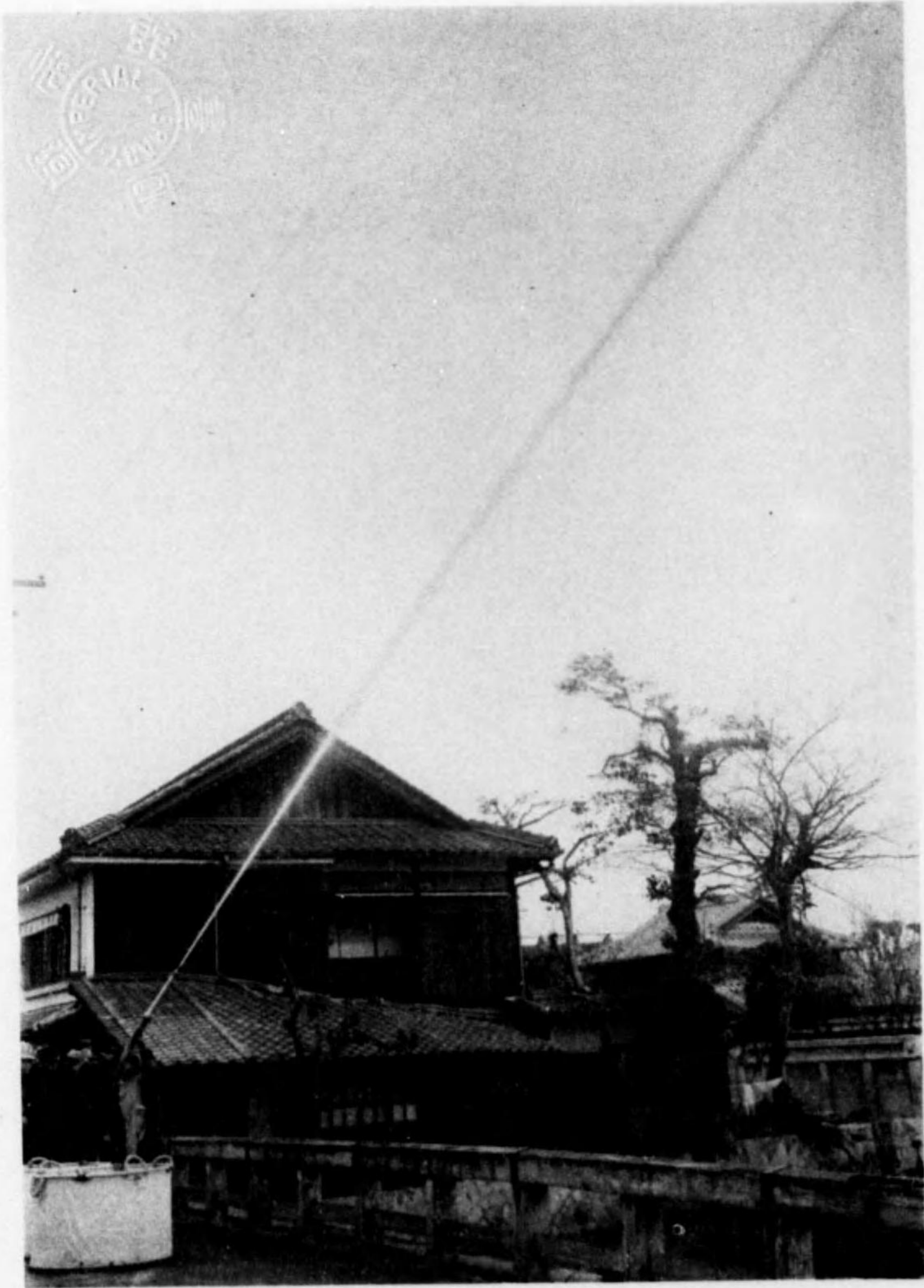


室筒唧





所務事と塔水配



消火栓の放水試験

例言

- 一、本誌は中津町水道布設工事の記録にして、十篇に分ち、必要なるものは章を設けて其の詳細を叙し、工事施行の實際を知ると共に他日の参考資料たらしめんが爲め編纂したるものなり。
- 二、本記事は總て工事関係書類に基き更に之を精査し、明確に且つ遺漏無きを努めたり。特に數字に關するものは反覆檢照して過誤無きを期したり。
- 三、記事相互に關聯して重複せる點あるも是れ讀者をして理解し易からしめんが爲なり。

昭和四年三月

中津町役場

序

中津は大分縣の西北端に在り、中古に至るまでは渺たる一の漁村に過ぎざりしが、黒田氏の此の地に城を築きてより漸次發展の緒に就き、細川、小笠原、奥平諸氏の入國するに及びて市街を形成し、北豊に於ける一都市たるを得るに至れり。爾來諸般の制度幾たびか改革せられ、明治維新の曙光を浴ぶるに當り、學界に宗教界に將た刀圭界に偉人傑士を輩出したるも、社會的施設は依然として見るべきものなかりき。

然るに豊州鐵道の敷設、耶馬溪鐵道の新設、製絲、紡績、諸會

二
社の勃興に伴ふて商工の業漸次其の陣容を改むるに至りたるも衛生設備の如きは遅々として進む所なし、殊に上水道は防火飲料の見地より急施を要し都市生活上缺ぐべからざるものなるが故に之が布設の議は夙に有志の間に起りたるも機運熟するに至らず、荏苒其の日を送りたるが大正十二年四月計畫初めて成り、當時の町會は滿場一致空前の大事業たる上水道の布設を議決し書類を具して其の筋へ稟請したり。然るに大正十四年四月多年の懸案たりし隣村豊田、大江の合併實施せらるゝに當り設計變更の必要を痛感し、水源地を山國川の流域松の瀬の沿岸に相し、町會の協賛を得て、元大阪市長工

三
學士澤井準一氏へ之が調査計畫を委囑したるに、大正十五年三月目論見變更の計畫成り、同月二十五日の町會に於て滿場一致水道布設に關する總ての事項を議了し、之を敢行するに至れり。爾來資を投ずること五拾萬圓、施行期間十八ヶ月に亘り、幾多の波瀾曲折に遭遇したるも町會の翼賛と關係者諸氏の援助とに依りて大過なく豫定の工を竣へ、町民は齊しく斯の文化的施設の惠澤に浴し其の洪徳を謳歌しつゝあり。
今や清冽玉の如き水は不斷滾々として市街の隨所に迸出し、久遠に町民生活の安定に寄與するを得たり。而かも其の水質の純良にして其の量の豊富なるは吾等町民の

享くる特殊の天恵とも稱すべく、耶馬の景勝と共に他に誇るに足るものあらん。
 茲に全く工を竣ゆるに當り、施設の梗概を叙し、將來に記念するに共に該事業工事を起さんとするもの、爲め參考の一端に資せんことを、豈に徒事ならんや。

昭和四年三月

中津町長 大江富太郎

目次

第一 總説篇

第一章 中津町概観……………一

一、町制以來戸口増減表……………三
 二、町制以來歳費増減表……………三
 第二章 上水道の沿革……………四

第二 調査篇

第一章 調査……………八

第三 計畫畫篇

第一章 目論見及設計……………二

一、當初申請の中津町上水道目論見計畫書……………一四

二、目論見變更計畫書……………六四

第四 實 施 篇

第一章 布設及補助申請……………二四

第二章 財 政……………二五一

第三章 起 債……………二六三

第四章 工事豫算更正……………二七四

第五章 土地買收……………二八六

第五 施 工 篇

第一章 鐵管検査……………三二

第二章 浄水場工事……………三七

一、取水場……………三七

二、取水唧筒場……………三八

三、濾過池……………三九

四、貯水池……………四〇

五、送水唧筒場……………四一

六、配水塔……………四二

第六 經 營 篇

第一章 中津町臨時水道部と水道委員會……………四八

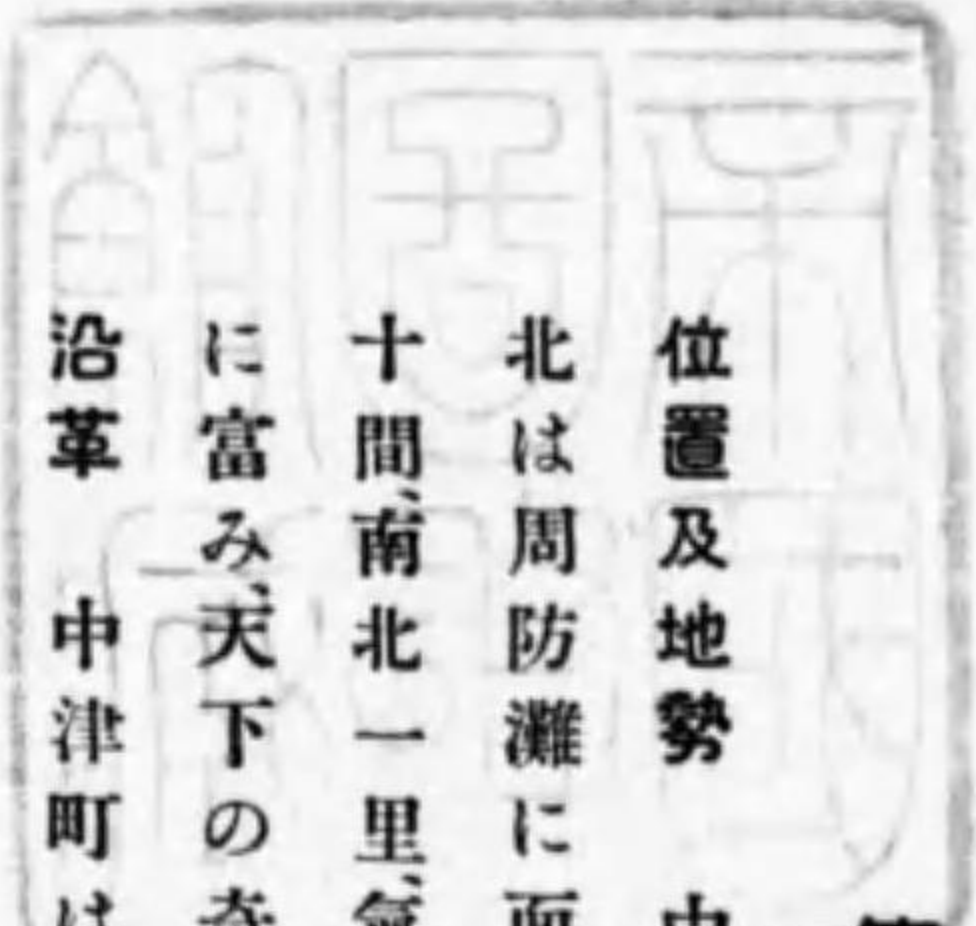
第二章 諸 規 程……………四九

第三章	職員	四〇〇
第七	竣工功篇	
第一章	起工及竣工	四三二
第二章	通水式	四三七
第八	給水篇	
第一章	給水工事	四四六
第二章	水道使用條例	四四七
第九	水質篇	
第一章	水質試験成績	四六八
第十	附録	四七一

中津町上水道誌

第一 總 說 篇

第一章 中津町概観



位置及地勢 中津町は大分縣の西北端に位し、西は山國川を挟みて福岡縣に接し、北は周防灘に面す。東經百三十一度十一分、北緯三十三度三十六分、東西三十三町二十間、南北一里、氣温最高九十五度、最低二十九度、地勢概ね平坦にして、近郊名所舊蹟に富み、天下の奇勝耶馬溪は南方三里、鐵道及び自動車の便あり。

沿革 中津町は黒田、細川、小笠原、奥平諸藩の舊城下にして、福澤先生の出身地なり。明治四年七月廢藩置縣の際、中津縣を置かれ、同年十一月小倉縣に併合せられ、同年四月再び福岡縣に合併せられ、同年八月更に宇佐郡と共に大分縣の管轄となり、同十一年大小區制廢せられ、新に郡町村の編制成るや、中津町は獨立して一町と

なり、其他は數村聯合にて一役場を置き、同二十二年町村制の實施に依りて島田、中殿、上下宮、永四村は豊田村となり、蠣瀬、大塚、角木は大江村となりしが、此の一町二村は地勢上頗る密接の關係を有し、合併の議風に起り、大正十四年四月一日多年の懸案解決して、大津町を建設したり。然るに其後鶴居、小楠の兩隣村を合併して、沖代平野を一團となし、大津市を建設せんとするの議起りたるが、機運熟して小楠村との合併成立し、愈々昭和四年四月一日より實施することとなり、市制施行と共に目下其筋へ手續中なり。

町勢 黒田氏居城を此地に築きてより藩政治の中心地となり、般賑を極めたりしも、廢藩と共に昔日の面影を失ひ一時沈衰せしに、時代の變遷は著しく進展し、茲に鐵道の開通と相俟ちて交通運輸の便備はり、豊中製絲、鐘紡支店、富士紡工場等の大工場順次建設せられ、天下の奇勝、耶馬溪の關門として、又地方物資の集散地として商工の業日に月に隆盛に赴き、一躍して東九州に於ける屈指の商工都市となれり。想ふに町制施行以來茲に五十餘年、如何に本町が長足の進歩をなせるかは、戸口の増殖と公費の膨脹とに依りて想察するを得べし。

一、町制以來戸口増減表

戸口	年度	
	明治	同
戸口	二十二年	同二十六年
人口	二五、八〇〇	一三、四〇〇
戸數	二、三八〇	二、三〇〇
戸口	三十一一年	同三十六年
人口	二二、四〇九	一四、五二二
戸數	二、一〇〇	二、〇〇〇
戸口	三十二年	同三十七年
人口	二二、六〇〇	二七、六〇〇
戸數	二、一〇〇	二、七〇〇
戸口	三十八年	同四十一年
人口	二四、七〇〇	二五、四〇〇
戸數	二、二〇〇	二、三〇〇
戸口	三十九年	同四十四年
人口	二五、七〇〇	二五、八九七
戸數	二、二〇〇	二、三〇〇
戸口	四十四年	昭和大正五年
人口	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
戸數	二、二〇〇	二、二〇〇
戸口	昭和大正五年	昭和二年
人口	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇
戸數	二、二〇〇	二、三〇〇

二、町制以來歳費増減表

歳費	年度	
	明治	同
歳入	二二二年	同二十六年
歳入	三、四〇〇	四、三〇〇
歳出	三、四〇〇	四、三〇〇
歳入	三十一一年	同三十六年
歳入	八、八〇〇	二四、四〇〇
歳出	八、三〇〇	二四、七〇〇
歳入	三十二年	同三十七年
歳入	二二、六〇〇	二七、六〇〇
歳出	二二、六〇〇	二七、六〇〇
歳入	三十八年	同四十一年
歳入	二四、七〇〇	二五、四〇〇
歳出	二四、七〇〇	二五、四〇〇
歳入	三十九年	同四十四年
歳入	二五、七〇〇	二五、八九七
歳出	二五、七〇〇	二五、八九七
歳入	昭和大正五年	昭和二年
歳入	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇
歳出	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇

上記の如く明治二十二年に於ては戸數二千三百八十、人口一萬三千八百町の經常費三千四百五十餘圓の少額なりしも四十餘年後の今日に在りては戸數五千百、人口二萬六千百、町費亦三十萬圓を突破するに至れり。

尙ほ隣接村小楠との合併成立して市制實施の曉に至らば戸數五千六百二十九

戸人口三萬七百三十八人歳入出約四十萬圓を算すべし。想ふに本町は尙未だ創業の時代に屬し、向上發展の途に在るを以て將來健實なる本市の向上發展を遂げ他日九州に於ける有數の都市たるに至らん。

第二章 上水道の沿革

吾人が集團的生活を營むに當り文化の惠澤に浴せんとするは當然の要求にして之が爲め百般の施設を完備し更に進んで己まざるものあるは現代の趨勢なり。而かも上水道設備の如きは其の最も急なるものにして緊要の事業たらずんばあらず。況んや本町の如く戸口年を逐ふて増殖し、諸般の文物隆々發展の途に在る地に於て其の施設を要望して己まざるは寔に時代の要求たるのみならず、地勢上海濱に近く水質概して良好ならざる本町が保健衛生上其の要望を實現せしめたるは適應の措置なりと信ず。

願れば本町には今を距ること三百十年前元和六年細川氏治世の際鶴居村の大井手堰より中津城内に水を引用し其の後三十三年を経て承應元年小笠原氏の世

に至り市街地に水道を布設し爾來幾多の修理を加へたるも其の施設固より舊式に屬し幹線水路の如きも田圃の間を通ずる灌漑用水の流末を利用するに過ぎず飲料水として危険尠からず、且つ防火の上より觀るも上水道布設の急務を痛感し、明治三十八年の頃より一部の有志によりて之が調査をなしたることありしも機運熟するに至らず、其後大正九年當地方を中心として陸軍特別大演習の舉行せらるゝに當り、上水道布設の急務を認むるに至れり。茲に於て初めて調査費を議決し漸次其歩を進め、大正十年二月七日之が布設測量設計及工費豫算書作成に付日本水道衛生工事株式會社に委託し、同十一年六月十七日より六日間の豫定を以て町長、技手及委員四氏の一行は備中玉島町、備前西大寺町、大阪市、堺市、尼ヶ崎市に赴き各水道布設の情況を視察し、大に得る處あり、次で水源地下水質試験を縣に依頼したるに水質の良好なるを認められ従て總ての調査設計書類を整ふることを得、同十二年五月二十三日の町會に提案し滿場一致を以て議決し翌二十四日其筋へ出願せり。然るに同年九月一日關東地方大震火災の餘波を受け一時中止するの己むなきに至れり。

其後大正十四年四月一日より豊田、大江隣村の合併を見るに至り、曩に出願の目論見變更の必要を認め、町會の協賛を経て大正十四年十二月七日元大阪市水道部長澤井準一氏へ之が調査及計畫を依頼せしに數回來津の上實地に就き比較調査をなし、成案を得たるを以て別記計畫書を作成せり。依て大正十五年三月二十五日の町會に提案せしに滿場一致を以て議決し、翌二十六日一件書類を添へて其筋へ出願せり。同年九月二十一日起債許可並に施工認可を得、同年十月一日水道布設工事施行に關する總ての附帶事項を議決し、尙同日より臨時水道部を設置し、事業の執行に當れり。

大正十五年
昭和元年度に於ては大正十五年十一月六日水源地に於て起工式を舉行し、取水場工事の施行鐵管購入等諸般の施工準備に忙殺され、昭和二年五月十三日唧筒場、濾過池、貯水池、配水塔及び此等に關聯する土工等の水源地主要工事に就き大林組と請負契約を締結し、同月二十五日工事に着手、同月二十六日より配水鐵管の布設を開始し、水源地淨水場工事施行と共に極力工事の進捗を計り、同三年一月五日より給水工事を開始し、同年三月十日取水、送水唧筒の試運轉を爲し配水本管より通水を

初め、漸次市内の配水管へ通水を行へり。而して起工以來十八ヶ月を経て清冽玉の如き淨水は滾々不盡市街の隨所に送り出で、久しく用水の缺乏に悩まされたる吾が町民は茲に初めて愁眉を開き文化的衛生施設の恩恵を謳歌するに至れり。

第二 調査篇

第一章 調査

大正九年二月二十八日水道布設調査費を議決し調査委員七名を選定す同年五月七日實地調査の件に付日本水道衛生工事株式會社へ照會す。大正十年一月二十五日調査委員會開催實地に就き調査測量を爲すことに決定し同會社へ交渉す同年二月五日金七百圓にて契約し羽間技師來津同月九日水源地に就き調査及び測量を爲せり同月十五日調査委員會開催同技師より調査設計に付説明を爲し同年七月二十日調査委員會開催井上技師來津設計上に就き説明を爲し計畫人口三萬人と二萬人の比較設計を爲す事に決定せり同年九月十三日調査委員會開催計畫人口を三萬人とし本設計を爲すことに決定直ちに同會社へ通知す大正十一年六月十七日水道布設調査の爲め菊池町長は石黒岩田永吉東の各委員及び中技手と共に同日午後四時中津驛を出發して備中玉島町備前西大寺町大阪市堺市尼ヶ崎

市に赴き各水道水源地に並に送水方法に就き視察を爲し同月二十一日歸津す同年七月十三日調査委員會を開催して各地水道視察の状況を報告し當町の布設方法と比較協議の上右設計の一部變更及増設の件に就き日本水道衛生工事株式會社へ通知せり同年八月三日大分縣知事宛に水源地下水質出張試験の件に付申請する所ありしに同年十月三十日縣衛生課より技師二名來津水源地に於て水質試験を爲せり同年十二月四日参考の爲め門司小倉別府へ水道豫算書及び規則書送付方に付照會す。

想ふに本町の水道布設事業の調査も着手以來三ヶ年を費し茲に漸く該計畫の成案を得て大正十二年四月二十三日の町會に於て水道布設に關する總ての事項を議決し同月二十四日水道布設認可申請國縣補助申請並に起債許可申請を其筋へ提出す同年六月二十五日日本水道衛生工事株式會社より山中技師來津し曩に出願せし設計書類の付箋に就き調査を爲し同月二十七日出縣調査係の技師へ説明を了し本省へ進達濟の處同年九月一日突發せる東都大震火災の爲め書類全部焼失し其の照會に依りて再び書類の提出をなすに至れり。

然るに大正十四年四月一日より隣接村豊田、大江二村の合併實施に伴ひ水道布設目論見變更の必要を認め、同年七月十七日堀之内町長、中技手の兩人出張の上別府滞在の元大阪市水道部長澤井準一氏へ中津町水道布設に關する從來の經過を述べ實地の視察を依頼したるに翌十八日來津松の瀬及三口の兩水源地に就き視察を爲す、同年九月十九日役場樓上に於て澤井準一氏より水道布設計畫上に關し詳細なる説明あり、同年十一月二十七日調査委員會開催之が調査計畫に就き滿場一致を以て澤井準一氏へ囑託する事に決定、直ちに同氏へ交渉す、同年十二月二十一日同氏へ水道布設計畫出願に關する顧問を囑託す、同年度に於て調査費の追加更正を爲し、市内大字下宮永字青田及上河原の二ヶ所に試験井を掘鑿し、之れが湧出水量其他に就き比較調査をなし、同年二月十五日調査委員會開催、澤井顧問並に北川技師よりの説明に基き協議の上水源地は字上河原松の瀬に決定す、同月十九日水源地水質出張試験出願、同月二十五日縣衛生課技師二名來津し水源地水質試験を爲せり、茲に於て水道布設に關する總ての成案を得たるを以て、同年三月二十二日調査委員會開催、水道布設計畫書の目論見變更に對する内容に就き、澤井顧問

及北川技師より説明し原案の通り決定す、同月二十五日の協議會に於て水道布設目論見變更計畫書其他布設に關する件に就き澤井顧問及北川技師より詳細説明を爲し、本會議に於ては滿場一致を以て原案の通り議決し、翌二十六日水道布設目論見變更の認可を申請し、同時に之に伴ふ國、縣補助金増額の申請並に起債許可の申請に關する一件書類を其筋へ提出せり。

町の負擔力 大正十五年度

町	縣	直接國	稅目	金額	納稅者數ニ對スル一人當リ	總人口ニ對スル一人當リ	總戶數ニ對スル一人當リ
町	縣	直接國	稅	131,110,000 121,011,000 16,519,000	35,326 17,209 17,441	5,488 6,355 6,283	36,082 3,781 3,835

町稅內譯

稅目	金額	追加額	計
地租附加稅	9,111,200	0	9,111,200

第二 調査篇

特別地稅附加稅	所得稅附加稅	國稅營業稅附加稅	縣稅營業稅附加稅	縣稅雜種稅附加稅	附縣稅加戶數稅割	計
四八、二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	四八、二〇〇
一四、九八、二五〇	〇	〇	〇	〇	〇	一四、九八、二五〇
三、五四、八〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	三、五四、八〇〇
二、〇三、四七〇	〇	〇	〇	〇	〇	二、〇三、四七〇
四、八六、五七〇	〇	〇	〇	〇	〇	四、八六、五七〇
四六、七五、二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	四六、七五、二〇〇
一三、四、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一三、四、〇〇〇
一六、五九、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一六、五九、〇〇〇

第三 計畫篇

第一章 目論見及設計

本町の水道は所謂河川伏流水式にして目論見書に示したる如く山國川右岸川敷寄洲内に集水管を埋設し、水平に堤内取水井に導水し唧筒に依り配水塔に送水し、夫より市内へ自然流下の法を取り給水人口三萬人に對する設計を爲せり。而して之に要する工費は二十八萬一千八百六十三圓、財源は國縣補助の外一部町費の繰入を爲し其の他は全部起債に依れり。大正十二、三兩年度にて竣工の計畫なりしが、當初布設認可申請後大正十二年九月一日關東地方大震災の餘波を受け一時延期の止むなきに至れり。然るに大正十四年四月一日より隣接豊田、大江兩村の合併實施に伴ひ、曩に出願せる水道布設計畫に就き目論見變更の必要を認め、更に之れが調査を爲し、大正十五、六兩年度にて竣工の見込に依り目論見變更計畫を確立せり。當初申請の目論見計畫並に認可を得たる目論見計畫は左の如し。

(一) 當初申請の中津町上水道目論見計畫書

第一、水道事務所ノ位置

大分縣下毛郡中津町役場内トス

第二、水源ノ位置、取水方法、水量ノ概算並ニ水質

水源ハ大分縣下毛郡豊田村大字下宮永字蛭川ニ於ケル山國川ノ潛流水ヲ引用スルモノニシテ該川ノ表面ヲ流ル、平水量ハ六七二〇立方尺毎秒ニシテ最湯水時ト雖モ一三五立方尺毎秒ヲ下ラザルガ故ニ該川流域ノ廣袤及河床ノ地質並ニ地表流水量ノ比較等ヨリ本川伏流ノ少ナカラザルヲ認知スルニ難カラス而シテ本町水道用水ハ人口三萬人ニ對シ最大使用量毎秒一、三〇二立方尺ナルヲ以テ前記伏流水ノ一部ヲ引用スレバ充分ニシテ下流ニ於ケル灌漑用水等ニ些ノ影響ナシトス水質分析表別紙ノ通り

第三、送水線路、線路ニ沿ヒタル地名、ポンプ場、沈澱池、濾過池及貯水池ノ位置

- 一、送水線路、大分縣下毛郡豊田村大字下宮永字蛭川ヨリ中津町ニ達ス
- 二、線路ニ沿ヒタル地名、中津町金谷、同萱津、同京町

三、ポンプ場、大分縣下毛郡豊田村大字下宮永字蛭川貯水池

四、濾過池及沈砂池、濾過池ハ山國川ノ潛流水ヲ引用スルモノナルニヨリ之レヲ設ケス沈砂池ハ集水井ニテ兼用スルモノトス

五、貯水池、大分縣下毛郡豊田村大字下宮永字蛭川

第四、給水ノ區域、其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

- 一、給水ノ區域、中津町全部
- 二、人口、現在人口壹萬五千人ナルモ増加人口ヲ見込ミ三萬人トス
- 三、一人一日ニ對スル給水量、一人一日ニ對スル平均給水量ヲ二、五立方尺トシ一人一日ニ對スル最大給水量ヲ三、七五立方尺トス

第五、人口増殖及多量ノ水ヲ用ユル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
將來人口増殖ニ依リ給水量ニ不足ヲ生ズル時ハ更ニ設備ノ擴張ヲナスモノトス

前項ニ掲ゲタル一人一日ノ平均給水量ハ特ニ多量ノ水ヲ用ユル製造場等ニ對スル量ヲモ含ムモノトス

第六、水壓ヲ概算、最大水量使用時ニ於ケル地盤中心高上動水壓高左記ノ通り

殿町通京町角附近 約四十七尺

金谷小祝線交叉點附近 四十尺

豊後町通鹽町角附近 三十七尺

豊後町通終點 三十四尺

殿町交叉點附近 四十尺

小祝終點 三十二尺

第七、工事方法

一、取水口及取水管

取水路ハ新築特許簡易上水道取水方法ニ依リ鐵筋コンクリート管九十間ヲ山國川ノ砂利中ニ約十尺ノ深サニ埋設シ集水井ニ接続セシムルモノトス
其構造ハ内徑二尺ノ鐵筋コンクリートニ無數ノ小穴ヲ穿チタルモノヲ芋繼ギトナシ埋設シ其周圍ニハ平均厚三尺ノ砂利ヲ卷キ外部ニ行クニ從ヒ漸次小サクシテ用ヒ自然濾過ニ依リ濾過サレタル潛流水ヲ集水井ニ導ク裝置トス

二、沈砂池、貯水槽、餘水路

沈砂池ハ集水井ニテ兼用セシメ、貯水池ハ前記砂利層鐵筋コンクリート管及集水井ヲ以テ之ニ充ツ

餘水路ハ貯水槽ノ頂部ヨリ八吋鐵管ヲ下シテ之ニ充ツ

三、沈澱池及濾過池

沈澱池及濾過池ハ前述ノ如ク自然濾過法ニ依リ集水スルモノナルヲ以テ其ノ設備ヲナサズ

四、集水井

集水井ハ取水管ニ接続セシメ自然濾過法ニ依リ取水管ヲ通ジテ入流シタル水ヲ集ムル所ニシテ第三號圖ニ示ス如ク山國川ノ右岸堤防際ニ之ヲ設クルモノトス

其構造ハ圓形ニシテ長徑十二尺深サ二十三尺側壁厚十吋復式鐵筋コンクリート造リニシテ底ハ標準高零點以下十一尺マデ沈下セシメ底部ニハ五尺ノ砂利ヲ填充シ普通ノ井ノ如クナシ此レヨリ湧出スル水ヲモ利用ス

頂部ハ零點以上十二尺トシ厚サ十吋ノ鐵筋コンクリート蓋ヲナシ其一部ニ人孔ヲ設ク人孔ハ内外水壓力ニ對シテ決シテ開閉セザル設備トシ内部ニ鐵製梯子ヲ設ケ掃除等ノ便ニ備フ

五、ポンプ場

ポンプ場ハ貯水槽ノ下部ニ設ケ集水井ニ集リタル清淨水ヲ貯水槽ニ送ルタメ設クルモノニシテ場内ニハ發電機ポンプ五十馬力一臺及豫備吸入ガスインヂンポンプ五十馬力一臺トヲ据付ク

尙場ノ一部ヲ事務室ニ充テ「ベンチユリメーター」ノ壓力管ヲ引込「メーター」ノ檢定ヲ容易ナラシム

ポンプハ横軸「タービン」ポンプ二臺トシ一臺ハ専ラ常時水槽ヘノ送水ニ用ヒ他ノ一臺ハ設計水頭ヲ大トシ火災時配水管ニ直結シテ管内ニ高壓水ヲ送ルモノトス

非常時ニ際シテハポンプ室ニ設ケアル制水瓣ノ開閉ニヨリ貯水槽ニ送ラスシテ直ニ市街配水管ニ直送シ得ル設備トス

六、貯 水 槽

貯水槽ハ圓形ニシテ直徑二十尺深サ二十尺底部半球ノ貯水量八、三七七立方尺ニシテ人口參萬人ニ對スル二時間半分強ノ容量ヲ有ス其構造ハ全部鐵骨ニシテ上部十尺ハ厚十六分ノ三吋下部十尺ハ厚四分ノ一吋底部モ厚四分ノ一吋頂部屋根ハ厚八分ノ一吋ノ軟鋼板ヲ用ユ且ツ水槽ノ周圍ニハ「バルコニー」ヲ附ス塔ノ脚ハ六本トシ各部構造ハ十吋ノ「形二板」ヲ箱形ニ對立セシメ「シングル」ラツチーストス

水槽ノ周圍ニハ防暑防寒ノ設備ヲナス

七、配 水 管

配水本管ハ十二吋ニシテ水槽ヨリ高畑ニ至リ八吋管ヲ分岐シ市内殿町通京町角ニ至リ三方ニ分レ一方殿町通リヲ西へ六吋一方東ニ豊前銀行前ニ至ル八吋夫レヨリ左折シテ郡道筋古魚町船町ヲ經テ豊後町通リ町村界ニ至ル八吋管金谷方面へ貯水槽ヨリ百八十間ノ地點ヨリ左ニ分岐シテ金谷本町ニ出デ諸町ヲ經テ殿町通ニ連絡スルモノ五吋管トス以上ヲ配水本管トス

左ニ管種及延長ヲ掲グ

十二吋管	五百七十五間	三吋半管	七百十四間
八吋管	九百〇四間	三吋管	六千七百十九間
六吋管	二百三十八間	五吋管	三百九十六間
四吋管	一千三百八十九間	計	一萬九百三十五間

八、防火栓、共用栓、排泥管、安全瓣及排氣瓣

防火栓ハ全市街ニ七十九個ヲ設ク、共用栓ハ二十五ヶ所ヲ設クル豫定ナリ其他排泥管四ヶ所、安全瓣二ヶ所、排氣瓣五ヶ所ヲ設クルモノトス

九、水管橋

水管橋ハ夫橋外四ヶ所ニシテ總延長三百九十三尺トス

第八、取水量決定ノ理由

取水井ヨリポンプニテ水槽ニ送ラレ直チニ市街ニ配水セラル、モノナレバ此間漏水蒸發等ノ損失僅少ナルヲ以テ所要給水量一、七五立方尺毎秒ヲ以テ直チニ取水量ト決定セリ

第九、起工並ニ竣工期日

起工 許可ノ日ヨリ三ヶ月以内

竣工 起工ノ日ヨリ一ヶ年以内

第十、一位代價表

別紙ノ通り

第十一、工費豫算書

別紙ノ通り

第十二、工費ノ總額其ノ收入支出ノ方法

第十三、水料ノ等級價格、水料徴收ノ方法及經常費收支ノ概算

第十四、水質試験表

計畫說明書

一、施工箇所ノ地形及地質

取水井ハ山國川ノ川岸ニ設ケポンプ場ハ前記山國川ノ塔外ニ切取地均シノ上ニ設クルモノニシテ地盤ハ沖積土砂ヨリナル

二、給水區域

目論見書ノ通り

三、現在人口及將來増殖スベキ豫定人口、基本計畫給水人口、豫定給水人口、給水量、現在人口ノ八割ヲ以テ給水人口トナシ、豫定人口ノ八割ヲ以テ豫定給水人口ト見ナセリ、詳細ハ目論見書記載ノ通り

四、清淨方法

山國川ノ潛流水ヲ利用スルモノナルヲ以テ特別ノ裝置ヲ用ヒス

五、配水方法

各所制水瓣ヲ加減シ、全市間斷ナク一様ニ配水スルモノトス

六、配水本我線撰定ノ理由

本町ハ北ハ山國川ヲ以テ果セラル、ヲ以テ勢ヒ將來ハ南東ノ方ニ漸次發展スルモノト考ヘ本計畫ノ通り撰定セリ

七、管渠ノ断面及水壓ノ計算方法各種構造物設計ノ根據其他水道計畫ニ關スル必要ナル事項別紙ノ通り

大分縣下毛郡中津町水道敷設工事豫算書

歳 出

科 款	項 目	豫 算 額	種 目		摘 要		
			種 目	豫 算 額			
一 事務費	一 給料	八、六三〇、〇〇〇	一 技師	二、五〇〇、〇〇〇 <small>円</small>	一人	一ヶ年分	
			二 書記	七〇〇、〇〇〇	一人	同	月 六〇圓
			三 技手	二、四〇〇、〇〇〇	二人	同	月 一〇〇圓
			四 助手	一、八〇〇、〇〇〇	三人	同	月 五〇圓
			五 使丁	七〇〇、〇〇〇	二人	同	月 三〇圓
			六 給仕	四八〇、〇〇〇	二人	同	月 二〇圓

合計		一 豫備費	二、四三、〇〇	二、四三、〇〇	一 豫備費	三、四三、〇〇	二八、八六、〇〇	總豫算ニ對スル約百分ノ七、六
----	--	-------	---------	---------	-------	---------	----------	----------------

一 取水 管 工事費内譯書 延長九十間

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
鐵筋混凝土管	內徑二尺 長三 厚三吋	一八〇	本	八、七	一、五七五、〇〇	掘附共	
堀 鑿		五四〇	立坪	六、〇〇	三、二四〇、〇〇	埋戻共一式	
精撰砂利	徑六分 三寸以上	一〇〇	立坪	二〇、〇〇	二、〇〇〇、〇〇	管ノ周圍平均三尺厚	
混凝土環	一、二、四	一八〇	個	八、〇	一、四四〇、〇〇		

雜費	一六九、〇〇	
計	七、三六、〇〇	

二 集水 井

(內徑十二尺 深二十三尺)

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
井 戸 側	徑十二尺 深二十三尺	一		一、三六、〇〇	一、三六、〇〇	鐵筋混凝土製厚十吋蓋鐵館共	
同上沈下		二〇	尺	二五、〇〇	五〇〇、〇〇		
人 孔 蓋		一	組	二〇、〇〇	二〇、〇〇	防水設備費	
砂 利		二、六	坪	二〇、〇〇	五、二〇〇、〇〇	底下ヨリ高サ五尺入込トモ	
鐵 梯 子	長十五尺	一	組	二五、〇〇	二五、〇〇	取附共	
雜 費					三九、四〇		
計					一、八七五、〇〇		

三 送水ポンプ及吸水管並ニ押揚管

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
フットゲアルプ	八 吋	一	個	100,00	100,00		
兩フランヂ付直鐵管	十二尺モ、 九十度吋	一三	本	五〇、四六	六五、九六	吸水管 押揚管	七本 六本
同	八十五度吋	二	本	一八、一三	三六、二六		
フランヂ付丁型管	八 吋	二	個	一九、五〇	三九、〇〇		
スルクスゲアルプ	八 吋	六	個	七六、〇〇	四五六、〇〇		
電動機直結タービンポンプ	五十馬力	一	基		六、〇〇〇、〇〇	附屬品摺附迄一式	
サクシヨンボンプ エンジンボンプ	同	一	基		三、〇〇〇、〇〇	同上	
ポンプ基礎		一	式		六〇〇、〇〇		

ポンプ室	徑 5/8"	一五	坪	二五〇、〇〇	三、七五〇、〇〇	事務室兼用	
ボールトナツト		二九〇	本	三〇	五八、〇〇		
光明丹		三四	封度	三〇	六、八〇		
白ペンキ		二四	封度	三五	六、〇〇		
鉛線		二四	封度	三〇	四、八〇		
木綿糸		六四	封度	三五	二、二四		
ヘット		一六〇	封度	三〇	三、〇〇		
雜品		八、八	人	三、五〇	三〇、八〇		
鐵工		五	人	一、八〇	九、〇〇		
工夫		七、四	人	一、八〇	一三、三三		

名	稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
堀	鑿		四〇	立坪	五.〇〇	二〇〇.〇〇		
石垣	積替		八	面坪	七.五〇	六〇.〇〇		
雜費						四二四.九一		
計						三六〇.〇〇		

四貯水槽

名	稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
水	槽	內徑高各々二十尺	一	組	四	一四,〇〇〇.〇〇	組立共一式	
餘水路	直管	十八尺吋	六	本	三,六六	三三,八八	取付共一式	
同	曲管	九十度吋	一	個	三,三三	三,三三	同	
敷設費			一二	間	五,三五	六三,〇〇		
雜費						六九三,四九		

五貯水場地均及雜工

名	稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘
堀	鑿	十八二間	四七	立坪	三.〇〇	一,四一〇.〇〇	海岸迄運搬取捨地均共
石	垣	一ノ五	四〇	面坪	三.〇〇	一,二〇〇.〇〇	合端練築裏込平均三合ノ割
周圍	木柵及門共		四三	間	一〇.〇〇	四三〇.〇〇	末口二寸五分板焼丸太間ニ送り八本横切一式
石造	階段	巾一六寸 根込八寸 踏面八寸	一	個所		一三〇.〇〇	巾一間高三尺六寸見面二度敷キ
道路	新設費						巾一間半長二十間但用地費ヲ除ク
下	水溝		三八	間	一.〇〇	三八.〇〇	徑一尺鐵筋コンクリート管
餘	水路		二二	間	一〇.〇〇	二二〇.〇〇	
會	所					二五〇.〇〇	
計						一五,〇〇〇.〇〇	

計	雜費
計	三、四〇〇
	九、〇〇

六 配水管一部布設工事

水槽ヨリ「ベントリナーター」迄

名	形	數	單	單	金	摘	要
稱	狀	量	位	價	額		
稱	寸		呼			摘	
法	法		呼			要	
鉛線		二、〇			二、〇〇		
白ペンキ	一三二	一三三	封度		三、三〇		
光明丹	一八、七	一八、七	封度		三、七四		
同	同四十五度	二	本		七四、二四		
同	同徑十二吋	一	本		四、九六		
フランザ直管	同	八	本	八九、五五	七二六、四〇		
ベンチュリ	徑十二吋	一	組		二、〇〇〇、〇〇	附屬品一式	
計					二、四〇〇、〇〇		

名	形	數	單	單	金	摘	要
稱	狀	量	位	價	額		
稱	寸		呼			摘	
法	法		呼			要	
木綿糸		二、六	封度		五、九二		
ヘット		六、三	封度		一、三三		
雜品					一、三三		
鐵工		六、六	人	三、五〇	二三、一〇		
工夫		三、三	人	一、八〇	五、九四		
人夫		三、三	人	一、八〇	五、九四		
ホールトナット		一九八	本	三、〇	五九、四〇		
雜費					二、三三、六六		
計					三〇、〇〇		

配水鐵管布設工事費

同	十字管	同	同	同	同	同	同	同	同	甲丁字管
徑四八吋	徑十二吋	徑三三吋	徑三三吋半	徑三四吋	徑四四吋	徑三五吋	徑三五吋半	徑三八吋	徑三三吋半	徑八八吋
一	一	三〇	三	一五	一	七	一	六	一	一
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
	六七、七五	八、二三	九、三五	一〇、五九	一一、六六	一二、四四	一三、七五	一四、一三		
二七、五〇	六七、七五	二四六、九〇	二八、〇五	一五八、八五	一一、六六	九四、〇八	一三、七五	一四、七〇	二四、一三	二八、八八

同	同	甲丁字管	甲丁字管	同	同	同	同	同	同	直鐵管
				徑同三吋	徑三吋半	徑同四吋	徑五尺吋	徑同六吋	徑同八吋	徑十二尺吋
				四、〇三二	四二九	八三四	二三八	一一九	四五三	二八八
五	一	一	一	本	本	本	本	本	本	本
四一、五〇	四一、五〇	四三、一三		九、五	二、一六	一三、〇〇	一七、〇九	二五、四六	三六、九八	六九、元
一〇七、五〇	四一、五〇	四三、一三	四七、八八	三七、二六、〇〇	四、七七、六四	一〇、八四、〇〇	四、〇六、四二	三、〇九、七四	一六、七五、九四	一八、八三、三

甲片落管	同	同	同	同	同	同	同	同	同	乙丁字管
徑十二吋	徑三四吋	徑三三吋	徑三三吋半	徑四四吋	徑二五吋	徑四五吋	徑四六吋	徑三八吋	徑四八吋	徑十二吋
一	一	三六	四	一〇	一	五	三	一	九	四
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
二七、七五	九、五六	七、二〇	八、七	一〇、四〇	一三、二	一三、一〇	一五、六八	三三、七	三三、七	四〇、三
二七、七五	九、五六	二五、九二	三四、九二	一〇四、〇〇	一三、四一	六五、五〇	四七、〇四	三三、七	二〇四、七	一六〇、五
	排泥用							排泥用		防火栓 安全瓣 一三

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十字管
徑三三吋	徑三三吋半	徑三三吋半	徑三四吋	徑三三吋半	徑四四吋	徑三五吋	徑三六吋	徑三六吋半	徑五六吋	徑三八吋
六	二	一	六	二	一	二	一	一	一	六
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
二〇、六二	二、八五	二、七五	二、〇六	一四、〇〇	一五、〇〇	一五、八二	一八、六九	一九、四	三、六	二七、五〇
三、六	二、八五	二、七五	六、六	二八、〇〇	一五、〇〇	三、六三	一八、六九	一九、四	三、六	一六五、〇〇

凹形管	同	同	同	同	同	同	同	同	同	曲管
徑十二吋	二徑十二度吋	四徑十五度吋	九徑十三度吋	二徑三十二度吋	九徑三十度吋	二徑二十四度吋	四徑十五度吋	九徑十四度吋	二徑十五度吋	九徑十五度吋
二	一九	二〇	二八	四	五	一三	一二	一	一〇	二
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
一七、七五	五、六一	五、六一	六、五五	六、六〇	七、七二	七、八三	七、八三	九、二五	一〇、一一	三、〇〇
二五、五〇	一〇六、五九	一一三、二〇	一八三、四〇	二六、四〇	三六、五五	一〇一、七九	九三、九六	九、二五	一〇一、一〇	二四、〇〇
								豊後町排泥用		

同	同	曲管	曲管	同	同	同	同	同	同	甲片落管
九八度吋	廿二度	四十五度	九徑十二度吋	徑四吋	徑三吋半	徑四吋	徑三吋半	徑四吋	徑四吋	徑十二吋六吋
一	二	七	四	一	三	三	三	三	一	一
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
二、六三	三、六三	三、六三	四、八八		六、九六	二、三六	八、一九	一四、一三	二〇、六九	二四、〇〇
二、六三	六九、二六	二四、四一	一七、一五	一〇、一三	二〇、八八	三、〇八	二四、五七	四、三九	二〇、六九	二四、〇〇

第三計畫篇

同	アラツク	同	同	同	同	同	同	同	同	同
徑三吋	徑四吋	徑三吋	徑三吋半	徑四吋	徑五吋	徑六吋	徑八吋	徑十二吋	三吋	徑三吋半
一一	二	一〇〇	二二	四二	一二	九	一三	三	七	二
個	個	個	個	個	個	個	個	本	本	本
一、六〇	二、二六	三、九八	四、五八	五、三〇	六、四〇	七、五八	一二、七	三三、三六	三、五〇	三、五〇
一七、六〇	四、三	三六、〇〇	一〇〇、三	二八、四〇	七六、八	六八、〇四	一五、〇〇	六四、一四	二四、五〇	七、〇〇

第三計畫篇

同	同	同	同	凸形管	同	同	同	同	同	凹形管
徑四吋	徑五吋	徑六吋	徑八吋	徑十二吋	徑三吋	徑三吋半	徑四吋	徑五吋	徑六吋	徑八吋
六	二	一	三	二	七	二	六	二	一	三
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
四、三六	五、七五	七、二三	一〇、六三	一九、七五	三、七五	三、七五	四、三八	五、六三	六、七五	九、六三
二六、二八	二、五〇	七、二三	三、八九	三九、五〇	二六、二五	七、五〇	二六、二八	一一、二六	六、七五	二八、八九

同	同	煉瓦 柵	同	同	同	同	同	同	同	同
排氣辨用	安全辨用	制水辨用	排水辨用	安全辨用	同	同	同	同	同	同
五	二	二五	五	二	二九六	一五	一〇	一〇	四	一〇
個	個	個	個	個	本	封度	封度	封度	封度	封度
二、八〇	六、六〇	五、七三	五、七三	五、七三	二〇	二〇	二、五	二、〇	二、五	三、三
五九、〇〇	一三、二〇	一三、一五	二八、五	一一、四六	五九、二〇	三〇〇	二、五〇	二、〇〇	一、四〇	一、六八

制水辨	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
徑十二吋	徑八吋	徑六吋	徑五吋	徑四吋	徑三吋半	徑三吋	徑四吋	徑四吋	徑二吋	制水辨用
二	三	一	二	八	二	七	五	一	一	二五
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
一五、〇〇	六、〇〇	四、七〇	四、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	三〇、〇〇	二〇、〇〇	五、〇〇	六、六〇
三三、〇〇	三、〇〇	四、七〇	八、四〇	三、五九、二〇	六、二〇	二〇、六〇	一五、〇〇	二〇、〇〇	五、〇〇	一六、〇〇

鐵工	工	人	十二吋管敷設費	八吋管敷設費	六吋管敷設費	五吋管敷設費	四吋管敷設費	三吋半管敷設費	三吋管敷設費	小視橋附近鐵管包裝コンクリート
二〇	一〇	二〇	五七六	九〇六	二三八	四七六	一、六六八	八五八	八〇六四	
			間	間	間	間	間	間	間	
三、五	一、八〇	一、八〇	七、八八	五、二五	四、〇九	三、九	三、三	二、八九	二、七	
七、〇〇	一、八〇〇	三、六〇〇	四、五八、八八	四、七六、五〇	九七三、四三	一、八七〇、六八	五、五五、四四	二、四七九、六三	三三〇、四七	三〇〇、〇〇

雜工事費	計
二、二八、四三	一四、七〇〇、〇〇

水管橋費

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘要
小視橋	桁橋	三九三	尺	二〇、〇〇	七、八六〇、〇〇	小視橋百九十八尺夫橋五十六尺婦橋四十四尺小倉橋四十四尺小視小橋五十五尺
計					七、八六〇、〇〇	

防火栓設備費

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘要
防火栓	甲	六七	個	三三、〇〇	二、二四五、〇〇	
同	乙	一二	個	四三、〇〇	五二〇、〇〇	

同煉瓦柵	同鐵蓋	鉛	ヤーン	コークス	木炭	松薪	光明丹	白ペンキ	鉛線	木綿糸
七九	七九	九六	四二	六〇	五	四	一五	一〇	一六	四・四
個	個	听	听	听	貫	貫	听	听	听	听
六七〇	一一八〇〇	一、一五	一、一七	一、〇五	四、〇〇	一、一五	一、一五	一、一三	一、一〇	一、一五
五九三〇	九三、二〇	一四、五〇	一七、	二、一〇	二、〇〇	一、二〇	三、七五	二、一〇	三、一〇	一、五〇

ヘット	ボールトナット	雑品	鐵工	工夫	人夫	スタンドパイプ	セットパイプ	カップリング	同ハンドル	布ホース
							口徑 四分ノ三吋	三吋		三吋
二五	二六八		二〇	二〇	六〇	一五	三〇	四五	三〇	三、〇〇〇
本	本	人	人	人	人	本	本	組	個	尺
二、	三、		三、五〇	一、八〇	一、八〇	五、〇〇	一〇、一〇	六、六〇	三、八〇	一、二七
二、四三	五、六〇	二〇、〇〇	七、〇〇	三、六〇〇	一〇、八〇〇	八、一〇〇〇	三〇、六〇〇	二九七、〇〇	一一四、〇〇	三八、一〇〇〇

計	雜費	ホース車 二百尺卷	一五 卷	110.00	1,810.00		
		バルブキー	一五 個	10.00	150.00		
					3,950.00		
					13,600.00		

共用栓布設工事費明細書 (共用栓二十五ヶ所)

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
接合管	一寸	二五	個	24.00	600.00		
止水栓	同	二五	個	32.00	800.00		
同鐵蓋		二五	個	9.00	225.00		
土管	徑四吋	二五	個	4.00	100.00		
鉛管	一寸	五〇〇	尺	6.00	3,000.00		

木柱	長四寸角 五尺	二五	本	3,210	800.00		
給水栓	共用一寸	二五	個	2,500	625.00		
砂利		〇、五六	立坪	3,500	1,900.00		
三和石		一一〇	切	4,000	440.00		
延石		一〇〇	本	1,050	105.00		
モルタル	一、三	一ノ三〇	切間	3,000	6,300.00		
土管土	小拔用 徑三吋	二〇	間	1,500	30,000.00		
消ハング 耗其他 品		一	式	110,000	110,000.00		
鉛工		三五	人	3,500	87,500.00		
石工		一二五	人	4,000	50,000.00		
大工		七、五	人	3,000	22,500.00		

人夫	一二五人	一、八〇	三、五、〇〇
雜費			四、一、七〇
計			一、三、〇、〇〇

徑十二吋鐵管一本ニ付布設費

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
鉛		二二、〇	封度	一、一五	二、五、〇〇		
ヤーン		一、一	封度	一、一七	一、二九		
コークス		一四、〇	封度	〇、三、五	四、九〇		
木炭		一、一	貫	四、〇〇	四、四〇		
松炭		〇、二五	貫	一、一五	二、八〇		
砂利		〇、〇八	立坪	二五、〇〇	一、一〇		

徑八吋鐵管一本ニ付布設費

名稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
山土		〇、〇四	立坪	二〇、〇〇	八、〇〇		
雜品					一、五〇		
小運搬 其他 人夫		一、六	人	一、八〇	二、八八		
鐵工		〇、四	人	三、五〇	一、四〇		
土工		〇、二	人	一、八〇	三、六〇		
土工跡 其他 人夫		二、四五	人	一、八〇	四、四一		
計					一五、六六		
一間ニ付					七、八八		

名	形	數	單	金	摘	要
稱	狀	量	位	額	摘	要
	寸		呼			
	法		度			
鉛		一一、五	封度	一、五	一、七	
ヤ ー ン		〇、五八		一、七	〇、一〇	
コ ー グ ス		六、〇		〇、三	三、三	
木 炭		〇、六		四、〇	二、四	
松 炭		〇、一五		一、五	一、〇	
砂 利		〇、〇五八		一、五〇〇	八、七	
山 土		〇、〇二九		三、〇〇〇	八、六	

徑六吋鐵管一本ニ付布設費

計	一〇、五〇
一 間 ニ 付	五、二五

ヤ ー ン	〇、七五	一、七	三、三
コ ー グ ス	七、五	〇、三	二、六
木 炭	〇、七	四、〇	二、八
松 炭	〇、二	一、五	〇、三
砂 利	〇、〇七	一、五〇〇	一、〇五
山 土	〇、〇三五	三、〇〇〇	七、〇
雜 口			三、三
小 運 搬 据 附 其 他 人 夫	〇、八	一、八〇	一、四
鐵 工	〇、一四	三、五〇	四、九
工 夫	〇、〇七	一、八〇	三、三
土 工 跡 片 附 其 他 人 夫	一、九	一、八	三、四

雜品	小運搬据 其他 人夫附	鐵工	工夫	土工 跡片 其他 人夫附	計	一間 = 付
	〇、六	〇、二	〇、一	一、二三		
	一、八〇	三、五〇	一、八〇	一、八〇		四、〇九
	一、〇八	七、七〇	一、八〇	三、三〇		八、一八
	二、六					

徑五吋鐵管一本ニ付布設費

名稱	形狀寸法	數量	單位 稱呼	單價	金額	摘要
鉛		一、〇〇	封度	二、五	一、五〇	
ヤ ー ン		〇、四九		二、七	一、三三	

コー クス	木 炭	松 薪	砂 利	山 土	雜 品	小運搬据 其他 人夫附	鐵 工	工 夫	土工 跡片 其他 人夫附	計
五、〇	〇、五	〇、一五	〇、〇四六	〇、〇二三		〇、四二	〇、一八	〇、〇九	〇、九五	
三、五	四、〇	一、五	一五、〇〇	二〇、〇〇		一、八〇	三、五〇	一、八〇	一、八〇	六、五五
一、八	二、〇	三、〇	六、九	四、六	一、六	六、六	六、三	一、六	一、七二	

徑四吋鐵管一本ニ付布設費

名	稱	形狀寸法	數量	單位 稱呼	單價	金額	摘	要
鉛			八〇	封度	一、五	一、二〇		
ヤ	ー ン		〇四		七、	二、八〇		
コ	ー グ ス		四、〇		〇、五	二、〇〇		
木	炭		〇四		四、	一、六〇		
松	炭		〇一		一、五	一、五〇		
砂	利		〇、〇四四		一五、〇〇	六、六〇		
山	土		〇、〇二二		一四、〇〇	三、〇八		
雜	品					一、五		
一	間 ニ 付					三、九三		

徑三吋二分ノ一鐵管一本ニ付布設費

名	稱	形狀寸法	數量	單位 稱呼	單價	金額	摘	要
鉛			七五	听	一、五	一一、二五		
ヤ	ー ン		〇三五	听	七、	二、四〇		
コ	ー グ ス		三五	听	〇、五	一、七五		
工	夫		〇、〇八		一、八〇	一、四四		
鐵	工		〇、一六		三、五〇	五、六〇		
小	運 搬 据 付 其 他 人 夫		〇、七八		一、八〇	一、四〇		
計						五、五五		
一	間 ニ 付					三、三三		

名	稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
木	炭		〇三五		四、〇〇	一、四〇		
松	薪		〇一		一五、〇〇	一、五〇		
砂	利		〇、〇四四		一五、〇〇	六、六〇		
山	土		〇、〇一一		一〇、〇〇	一、一〇		
雜	品					一、二〇		
小運搬	其他		〇三		一、八〇	五、四〇		
工	夫		〇〇、四		一、八〇	七、二〇		
鐵	工		〇〇、八		三、五〇	二、八〇		
土工	其他		〇、六八		一、八〇	一、二三		
計						四、八二		
一間	二付					二、八九		

徑三吋鐵管一本ニ付布設費

名	稱	形狀寸法	數量	單位	單價	金額	摘	要
鉛			六〇	封度	一、五〇	九、〇〇		
ヤ	ー		〇、三	封度	一、七〇	五、一〇		
コ	ー		三、〇		三、五〇	一、〇五		
木	炭		〇、三		四、〇〇	一、二〇		
松	薪		〇、一		一五、〇〇	一、五〇		
砂	利		〇、〇四四		一五、〇〇	六、六〇		
山	土		〇、〇一一		一〇、〇〇	一、一〇		
雜	品					一、二〇		
小運搬	其他		〇三		一、八〇	五、四〇		

鐵工	工 夫	土工跡片 其他 人 夫	計	一間 = 付
〇、〇八	〇、〇四	〇、六八		
三、五〇	一、八〇	一、八〇		
二、八	〇、七	一、三		
		四、五		
		二、七		

防火栓煉瓦樹

名 稱	煉 瓦	數 砂 利	モ ル タ ル	煉 瓦 工
形狀寸法				
數 量	一〇〇個	二、五切	〇、八切	〇、二人
單 價	〇、四	〇、七	〇、三	四、〇〇
金 額	四、〇〇	一、八	〇、五	八、〇
摘 要				

制水瓣煉瓦樹

人 夫	計
〇、四人	
一、八	
七	
六、七〇	

名 稱	煉 瓦 樹	數 砂 利	モ ル タ ル	煉 瓦 工	人 夫	計
形狀寸法						
數 量	八〇個	二、四切	〇七切	〇二人	〇四人	
單 價	〇、四	〇、七	〇、三	四、〇〇	一、八	
金 額	三、二〇	一、七	〇、四	八、〇	〇、七	五、七
摘 要						

(二) 目論見變更計畫書

第一 水道事務所々在地

大分縣下毛郡中津町役場

第二 水源地ノ位置及水量ノ概算

一 山國川ノ右岸大分縣下毛郡中津町下宮永地先松ノ瀨ニ於テ同川寄洲内ノ浸透水ヲ引用スルモノニシテ其表面冬季最少流量ノ概算ハ一秒時約百五十立方尺トス

一 周圍ノ概況 別紙圖面第一號ノ通り

一 水質 別紙成績表ノ通り

第三 唧筒場、濾過池貯水池、配水塔ノ位置

大分縣下毛郡中津町下宮永

第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

一 區域 中津町

一 人口 三萬人

一、二人一日平均給水量 三立方尺

第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場ニ對スル給水量増加ノ見込

將來人口ノ増殖ニヨリ給水量増加見込高ハ一萬五千人分ニシテ淨水場ニハ相當ノ餘裕ヲ見込ミタルヲ以テ是ニ相當ノ設備ヲ加ヘ且ツ配水管ヲ増設スレバ本計劃ト合セ四萬五千人ニ供給シ得ルモノトス
前項ニ掲ゲタル一人一日給水量ハ特ニ多量ノ水ヲ使用スル製造場等ニ對スル量ヲモ含ムモノトス

第六 水壓ノ概算

市内中央旭橋通り國縣道交叉點ニ於テ

最小動水壓 六十三尺

配水幹線末豊後町中ノ辻ニ於テ

同上 五十一尺

第七 工事方法

別紙計畫書ノ通り

- 第八 起工並ニ竣功期限
起工 大正十五年七月
竣功 大正十六年十二月
- 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
別紙水道敷設費豫算書並ニ水道敷設費繼續年期及支出方法ノ通リ
- 第十 水料ノ等級價格水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算
別紙水道使用條例並ニ經常收支概算書ノ通リ

試驗成績書

依頼者 中津町長

水二種 試驗目的

定量分析

天候	探酌場所	探酌日時	温度	
			水	氣
晴天	下毛郡中津町上河原河表水	大正十五年二月廿五日午後一時三十分	一〇、〇	一〇、〇
曇天	下毛郡中津町上河原伏流水	大正十五年二月二十五日午後二時	一四、〇	一〇、〇

項目	温度		濁	色	臭	味	反應	硫	硝	亞硝	アンモニア	クロール	過マンガン酸カリウム消費量
	水	氣											
濁	一〇、〇	一〇、〇	澄明	無色	ナシ	ナシ	微弱アルカリ性	痕跡	検出セズ	検出セズ	検出セズ	六、三八一	四、一〇八
色	一四、〇	一〇、〇	澄明	無色	ナシ	ナシ	微弱アルカリ性	痕跡	検出セズ	検出セズ	検出セズ	六、三八一	三、一六〇

蒸發残渣	八五、七八	八一、一二
硬度	〇、九〇	〇、六五
細菌聚落數	三一七、	二三三、

備考

- 一、表中ノ數字ハ檢水「リットル」中ノ「ミリグラム」量ヲ示ス
- 二、硬度ハ獨逸式ニ據ル
- 三、細菌聚落數ハ檢水一立方仙迷中ノ個數トス
- 四、養地ハ肉越幾斯寒天培養基トス
- 五、培養溫度及ビ時間ハ二十二度ニ於テ四十八時間ナリ
- 六、大腸菌屬、病原菌並ニ寄生蟲及其卵等ヲ認メズ
- 七、溫度ハ攝氏檢溫器ニヨル

大正十五年三月二日

大分縣警察部衛生課 印

大分縣下毛郡中津町水道敷設繼續費收支計算書

收入

科	款	項目	大正十五年度	大正十六年度	計	種目	金額	附	明記
一	補助金	一 國庫補助金	五〇〇	四、五〇〇	五、〇〇〇	一 國庫補助金	五、〇〇〇		國庫補助金十二萬五千圓ノ内
		二 縣費補助金	—	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一 縣費補助金	五、〇〇〇		縣費補助金七萬五千圓ノ内
二	町債	一 町債	二〇〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一 町債	五〇〇,〇〇〇		町債額
三	一般會計 ヨリ繰入金	一 町費繰入金	一三、一〇〇	二五、一〇〇	三八、二〇〇				
			三三,〇〇〇	二五,一〇〇	三八,一〇〇				
			二五,一〇〇	二五,一〇〇	三八,二〇〇				

中津町水道敷設費歳出豫算明細書

第一款 事務費

一金參萬九千百貳拾圓

第一項 給料

一金壹萬四千百圓

內譯

種目	金額	摘要
(一) 技師給	五,000 <small>円</small>	技師二人年俸平均一,七〇〇圓 一ヶ年半分
(二) 書記給	一,800 <small>円</small>	書記一人月俸八〇圓 一ヶ年半分
(三) 技手給	四,300 <small>円</small>	技手三人月俸平均八〇圓 一ヶ年半分
(四) 雇員給	三,200 <small>円</small>	雇員三人月平均六〇圓 一ヶ年半分
計	14,300 <small>円</small>	

第二項 雜給

一金貳萬壹千四百貳圓

內譯

種目	金額	摘要
(一) 委員實費辨償	七六 <small>円</small>	委員七人委員會一回一人ニ付二圓 五四回分
(二) 手当當	三,500 <small>円</small>	勤務手当給料ノ二割 一ヶ年半分 兼務手当月三〇圓
(三) 報酬	三,000 <small>円</small>	顧問報酬年一、二〇〇圓 各一ヶ年半分 囑託報酬年一、〇〇〇圓
(四) 旅費	二,500 <small>円</small>	旅費年一、五〇〇圓 一ヶ年半分
(五) 使丁給仕給	九〇〇 <small>円</small>	使丁一人月三〇圓給仕一人月二〇圓 各一ヶ年半分
(六) 職夫給	五,600 <small>円</small>	職工一人 月九〇圓 工夫三人月平均八〇圓 各一ヶ年半分
(七) 賞與	四,400 <small>円</small>	雇員以上ノ給料ノ二割 使丁、給仕、職夫ハ一割五分 兼務三〇〇圓

(八) 一時給與金	55000	年三〇〇圓 一ヶ年半分
(九) 傷疾手当	30000	年二〇〇圓 一ヶ年半分
計	85000	

第三項 需用費

一金參千六百拾八圓

內 譯

種目	金額	摘要
(一) 備品費	50000	机、椅子、書籍等
(二) 消耗品費	70000	諸用紙、筆墨類、木炭等
(三) 通信運搬費	30000	電報、電話其他通信費
(四) 公衆電話架設費	60000	

(五) 賄費	50000	宿直賄料二人分一人一日平均二五錢 五四八日分 夜勤料一回三〇錢 一、〇〇〇回分
(六) 印刷費	50000	
(七) 被服費	35000	職工、工夫、使丁、給仕、六人一人平均二五圓 一ヶ年半分
(八) 點燈費	20000	年六〇圓 一ヶ年半分
(九) 雜費	9000	
計	319000	

第二款 工事費

一金四拾參萬九千百拾九圓五錢

第一項 淨水費

一金拾五萬貳拾四圓七拾五錢

內

一金貳萬九百五拾參圓五拾錢

(一) 取水場費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
種別	單位	數量	單價	金額	摘要
集水管布設費	間	五・〇	一五五〇〇	七八五〇〇	別冊單價表第三一號參照
導水管布設費	同	七・〇	一五〇〇〇	一〇・七五〇〇〇	第三二號參照
接合井	ヶ所	三・〇	二〇〇〇〇	六〇〇〇〇	第三四號參照
制水工	間	七・〇	一四〇〇〇	一・〇〇〇〇〇	
雜工事				七〇〇〇〇	
計				一〇・七五〇〇〇	

一金參萬參千貳百拾六圓六拾五錢

(二) 濾過池費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
----	----	----	----	----	----

基礎砂利搗固工	面坪	三七九・〇	一四〇〇	五三〇〇〇	別冊單價表第二號參照
底部混凝土工(乙)	立坪	二五・五	七三〇〇	一、八六八五〇	第四號參照
同上部同(甲)	同	一六・五	九五〇〇	一、五九七五〇	第三號參照
壁部同	同	九四・〇	三三〇〇	二、九七〇〇〇	第五號參照
底部防水工	面坪	三三・〇	七〇〇〇	二、三七一五〇〇	第二八號參照
同上塗工	同	三三・〇	一六五〇	五、四一五〇	第一五號參照
壁部同	同	二〇〇・〇	二四〇〇	七、五〇〇〇〇	第一六號參照
同伸縮繼手工	間	一〇・〇	六〇〇〇	一、八〇〇〇〇	第二九號參照
集水溝(甲)	同	三九・〇	五三〇〇	七、五五七〇〇	第二三號參照
同(乙)	同	一〇四・〇	九〇〇	九三、六〇〇	第二四號參照
砂利入工(甲)	立坪	四三・〇	二五〇〇	一、〇七五〇〇〇	第二五號參照

砂入工	同	一九〇	一七五〇〇	一、九七五〇〇	同	第二七號參照
笠石工	面坪	六〇〇	一〇〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	同	第二二號參照
鐵筋工(甲)	噸	二二〇	二〇九〇〇〇	五,〇一六〇〇〇	同	第四〇號參照
濾水節制機	組	四〇	二〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇		
同取付費	同	四〇	一〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇		
同上家棟	棟	四〇	二,〇〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇		
雜工事				七〇〇,〇〇〇		
計				三,〇二六,〇〇〇		

一金壹萬八千四百貳圓六拾五錢 (三) 貯水池費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
----	----	----	----	----	----

基礎砂利搗固工	面坪	九二〇	一,一〇〇	一,〇一八,〇〇〇	別冊單價表第二號參照
底部部混凝土工(乙)	立坪	四〇五	七,二五〇	三,〇六二,五〇〇	第四號參照
同上部同(甲)	同	二二〇	九,二五〇	一,九三五〇,〇〇〇	第三號參照
壁部同	同	二七〇	二,二五〇	三,〇六八,五〇〇	第五號參照
上屋同(甲)	同	一七〇	一,五〇〇	二,六〇一,〇〇〇	第六號參照
同防水押へ同(乙)	同	三五	八,五五〇	二,九二二,五〇〇	第七號參照
底部部防水工	面坪	九一〇	七,二〇〇	六,四四三,〇〇〇	第二八號參照
上屋同	同	七三〇	七,二〇〇	五,三三九,〇〇〇	同參照
底部部上塗工	同	四四〇	一,六五〇	七,四二二,〇〇〇	第一五號參照
壁部同	同	一八〇	二,四五〇	四,四一〇,〇〇〇	第一六號參照
上屋同	同	八〇〇	一,二五〇	一,〇〇〇,〇〇〇	第一七號參照

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
笠石工	同	二・〇	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	同 第二號參照
鐵筋工(甲)	噸	二八・〇	二〇,〇〇〇	五,六〇〇,〇〇〇	同 第四〇號參照
壁部伸繼繼手工	間	九・五	六〇,〇〇〇	五七〇,〇〇〇	同 第二九號參照
上屋水拔工	同	四九・〇	二,〇〇〇	九九八,〇〇〇	同 第三七號參照
空氣拔	ヶ所	八・〇	二〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	
出入孔	同	二・〇	一〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	
水位表示器	組	二・〇	一,一〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	
雜工事				二五〇,〇〇〇	
計				一〇,八〇〇,〇〇〇	

一金參萬七百拾圓

內譯

(四) 唧筒場費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
取水唧筒	臺	三・〇	一,二〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	十馬力電動機共
同 据付及試運轉費	同	三・〇	五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	
送水唧筒	同	三・〇	三,五〇〇,〇〇〇	一〇,五〇〇,〇〇〇	三十馬力電動機共
同 据付及試運轉費	同	三・〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	
汚水唧筒	同	一・〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	
同 据付及試運轉費	同	一・〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	
水位表示器	組	三・〇	一,一〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	
受電及配電設備費				一,五〇〇,〇〇〇	
上家	建坪	三・〇	二,〇〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	木造平家建基礎及地下室共
取水唧筒吸水井	ヶ所	一・〇	三,一〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	別冊單價表第三四號參照

送水唧筒同	同	1.0	1,450,000	1,450,000	同	第三五號參照
污水唧筒同	同	1.0	710,000	710,000	同	第三六號參照
雜工事			600,000	600,000		
計			30,410,000	30,410,000		

一金參萬四千五百八拾壹圓九拾五錢 (五) 配水塔費

內譯

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
基礎混凝土工	立坪	3.0	90,500 <small>円</small>	2,715,000	別冊單價表第一〇號參照
支柱	同	3.5	2,265,000	8,500,000	第九號參照
水	同	1.7	3,350,000	5,695,000	第八號參照
防水押へ	同	5.0	1,400,000	7,000,000	第一號參照

雜	同	立坪	1.0	640,000	640,000	同	第一四號參照
上塗工	面坪	400.0	2,000	1,100,000	同	第一八號參照	
土臺笠石工	同	2.0	10,000	210,000	同	第二二號參照	
防水工	同	5.0	7,000	4,015,000	同	第二八號參照	
基礎杭打工	本	22.8	2,900	6,618,000	同	第三〇號參照	
同梁石工	立坪	1.9	1,900	3,618,000	同	第一號參照	
鐵筋工(乙)	噸	37.0	2,350	7,975,000	同	第四一號參照	
手摺鐵物	枚	3.0	2,000	6,000,000			
梯子				500,000			
出入孔				1,000,000			
空氣拔窓		8.0	10,000	80,000			

避 雷 針					100,000	
雜 工 事					700,000	
					800,000	
					1,500,000	

一金壹萬貳千四百貳拾圓

(六) 土工費

內 譯

種 別	單位	數量	單 價	金 額	摘 要
淨水場切取工	坪	400.0	3,000	1,200,000	
同埋戻シ及盛土	同	1,100.0	5,000	5,500,000	實坪一、五〇〇坪ノ内四〇〇坪ハ切取土使用
同芝付工	面坪	300.0	1,000	300,000	
同石垣工	同	100.0	2,000	200,000	別冊單價表第三八號參照
同排水溝	間	110.0	5,000	550,000	
				6,750,000	

同 階 段 工 ヶ 所	六〇	5,000	300,000	
雜 工 事			300,000	
計			1,100,000	

第二項 水管費

一金貳拾五萬四拾四圓參拾錢

內

一金壹萬八千八百四圓八拾錢

(一) 淨水場鐵管敷設費

內 譯

種 別	單位	數量	單 價	金 額	摘 要
並直管	噸	50.0	115,000	5,750,000	
異形管	同	12.0	1,100,000	13,200,000	
十二吋管敷設費	間	110.0	15,000	1,650,000	別冊單價表第四二號參照

十吋管同	同	10.0	600	3000	同	第四三號參照
八吋管同	同	7.0	400	3000	同	第四四號參照
六吋管同	同	11.0	300	3000	同	第四五號參照
十二吋制水辦	個	10.0	10000	100000	別冊單價表第五三號參照	
同 取付費	同	10.0	1000	10000		
十吋制水辦	同	20.0	10000	200000		
同 取付費	同	4.0	900	3000	別冊單價表第五四號參照	
八吋制水辦	同	16.0	7000	100000		
同 取付費	同	16.0	600	10000	別冊單價表第五五號參照	
六吋制水辦	同	13.0	5000	60000		
同 取付費	同	13.0	400	6000	別冊單價表第五六號參照	

十二吋逆止辦	個	1.0	10000	10000		
同 取付費	同	1.0	1000	1000	別冊單價表第六〇號參照	
八吋逆止辦	同	3.0	2000	20000		
同 取付費	同	3.0	600	1000	別冊單價表第六一號參照	
十二吋安全辦	同	1.0	10000	10000		
同 取付費	同	1.0	300	300	別冊單價表第六二號參照	
十二吋量水器	組	1.0	200000	200000		
同 取付費	同	1.0	50000	50000		
制水辦取付室(甲)	ヶ所	9.0	2000	3000	別冊單價表第六六號參照	
同	同	2.0	100	300	同	第六七號參照
逆止辦取付室	同	1.0	20000	20000	同	第六九號參照

量水器取付室	同		二・〇		三五〇〇〇	三五〇〇〇	同	第七一號参照
ヘッドストック	個		二八〇		二〇〇〇〇	五六〇〇〇〇		
雑工事						二〇〇〇〇〇		
計						一八、〇〇〇、〇〇〇		

一金貳拾參萬壹千貳百參拾九圓五拾錢 (二) 配水管敷設費

内 譯

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
並直管	噸	一、一〇〇・〇	一、五〇〇	一、六五〇、〇〇〇	並直管ノ三「パーセント」
異形管	同	三・〇	二四〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	
十二吋管敷設費	間	一、一四〇・〇	八、二〇〇	九、五六〇、〇〇〇	別冊單價表第四六號参照
十吋管同	同	七〇・〇	七、〇〇〇	四、九〇〇、〇〇〇	第四七號参照

八吋管同	同		六〇〇・〇	五、五〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	同	第四八號参照
六吋管同	同		一、〇二〇・〇	四、五〇〇	四、五九〇、〇〇〇	同	第四九號参照
五吋管同	同		一、〇〇〇・〇	四、一〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	同	第五〇號参照
四吋管同	同		三、二五〇・〇	三、〇〇〇	七、四五〇、〇〇〇	同	第五一號参照
三吋管同	同		一、二一〇〇・〇	二、一〇〇	二八、八〇〇、〇〇〇	同	第五二號参照
十二吋制水辦	個		二・〇	一、二〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇		
同取付費	個		二・〇	一、一〇〇	二、四〇〇		別冊單價表第五三號参照
十吋制水辦	同		一・〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇		
同取付費	同		一・〇	九、五〇〇	九、五〇〇		別冊單價表第五四號参照
八吋制水辦	同		一四・〇	九、〇〇〇	一、一〇、〇〇〇		
同取付費	同		三・〇	六、七〇〇	二〇、一〇〇		別冊單價表第五五號参照

六吋制水辦	同	同	10.0	50000	50000	別冊單價表第五六號參照
五吋制水辦	同	同	10.0	48000	48000	別冊單價表第五六號參照
四吋制水辦	同	同	11.0	40000	44000	別冊單價表第五七號參照
三吋制水辦	同	同	11.0	30000	33000	別冊單價表第五八號參照
復排氣辦	同	同	10.5	24000	25200	別冊單價表第五九號參照
同取付費	同	同	7.0	90000	630000	別冊單價表第六三號參照
單排氣辦	同	同	7.0	20000	110000	

同取付費	同	同	7.0	10000	14000	別冊單價表第六四號參照
防火栓	同	同	15.0	30000	450000	
同取付費	同	同	15.0	20000	300000	別冊單價表第六五號參照
制水辦取付室(甲)	ヶ所	同	6.0	24000	144000	同第六六號參照(八吋以上用)
同	同	同	14.0	12000	168000	同第六七號參照(六吋以下用)
排氣辦取付室	同	同	7.0	27000	189000	別冊單價表第六八號參照
防火栓	同	同	15.0	17500	262500	同 第七〇號參照
鐵道橫斷工事					2000000	
水管橋					1000000	
給水工事費	ヶ所		1,190,000	10000	11,940,000	別冊單價表第七二號參照
量水器取付費	個		120.0	24000	2,880,000	量水器購入費共

線路築造費				500,000	
雜工事				3,000,000	
計				3,500,000	

第三項 運搬費

一金壹千七百圓

內 譯

(一) 鐵管其他運搬費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
鐵管運搬費	噸	約 1,100.0	1,000 円	1,100,000 円	
制水辦其他同				500,000	
計				1,600,000	

第四項 動力費

一金壹千五百圓

內 譯

(一) 工事用動力費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
電力代	千キロワット時	50.0	25,000 円	1,250,000 円	
引込工事費				500,000	
計				1,750,000	

第五項 器具機械費

一金壹萬五千九百圓

內 譯

(一) 工事用器具機械費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
輕便軌條	哩	0.5	3,180,000 円	1,590,000 円	附屬品共

鐵製土運車	同	五〇	五〇〇〇	五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	
木製土運車	同	一五〇	五〇〇〇	七五〇〇〇		
混凝土混和機	同	一〇	二,五〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇,〇〇〇	電動機共	
排水用唧筒	同	三〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇	同	
碎岩機	組	一〇	一,五〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	同	
セメント試験器	同	一〇	八〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇		
測量製圖器械				一,〇〇〇,〇〇〇		
土工用具				一,一〇〇,〇〇〇		
鐵管敷設用具				一,一〇〇,〇〇〇		
雜器具				三〇〇,〇〇〇		
水壓試驗機賃借料				一,〇〇〇,〇〇〇	二臺分	

修繕費					二〇〇,〇〇〇	
計					一四,七〇〇,〇〇〇	

第六項 建築物費

一金八千貳百圓

內譯

(一) 工事用建物費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
水源地事務所	建坪	二〇〇	一〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	
監督員詰所	同	一〇〇	五〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	
倉庫	同	五〇〇	三〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	
セメント試驗場	同	五〇	五〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇	
水壓試驗場	同	三〇〇	二〇,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	

淨水場木柵間	一八〇〇	一五〇〇〇	二,七〇〇,〇〇〇	別冊單價表第三九號參照
同門ヶ所	二〇	一〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	
雜小屋			二〇〇,〇〇〇	
修繕費			一五〇,〇〇〇	
計			八,一〇〇,〇〇〇	

第七項 試驗費

一金貳千五百貳拾圓

(一) 鐵管其他試驗費

內譯

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
鐵管試驗費	噸	約一,一〇〇・〇	一五〇	一,六〇〇,〇〇〇	
セメント同	樽	約三,〇〇〇・〇	一〇〇		

硅藻土同	依約	一,一〇〇・〇	〇五	六〇,〇〇〇	
制水辦其他同				三〇〇,〇〇〇	
計				九〇〇,〇〇〇	

第八項 補償費

一金九千貳百參拾圓

(一) 土地建物補償費

內譯

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
淨水場用地	坪	一,七〇〇・〇	三,〇〇〇	五,一〇〇,〇〇〇	
鐵管線路用地	同	二〇〇・〇	六,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	
借地料	同	五〇〇・〇	一,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	
家屋移轉費	建坪	五〇・〇	一〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	

計	地上物件其他賠償費	200,000	2,130,000
---	-----------	---------	-----------

中津町水道計畫說明書

第一 人口

本町ノ人口ハ大正十三年末現在舊町ハ一萬五千六百六十一新町ハ九千三百九十九合計二萬五千六十六ニシテ大正二年以降ノ統計ニヨリ舊町ノ人口増減ヲ表記セバ左ノ如シ

年次	人口	前年ニ比シ		摘要
		増人口歩	減人口歩	
大正二年	一五、四五三			
同三年	一三、九三三		一、五三〇	
同四年	一四、二八二	三、三〇〇	〇・〇一五	

同五年	一四、四八八	二〇六	〇・〇一四	
同六年	一四、九〇一	四一三	〇・〇一五	
同七年	一三、五〇九			二、一九三 〇・〇一四
同八年	一三、六六四	一、一五五	〇・〇九二	
同九年	一三、九五九	二九五	〇・〇一三	
同十年	一四、三七九	四一〇	〇・〇一〇	
同十一年	一四、八九六	五二七	〇・〇三六	
同十二年	一五、一七〇	二七四	〇・〇一八	
同十三年	一五、六六一	四九一	〇・〇三三	

前表ニ於テ大正三年及七年ノ兩年ハ人口著シク減少シ大正八年ニハ著シク増加セルモコハ全ク調査不確實ニ起因セルモノトシ第一回國勢調査ヲ行ヒタル翌年

即チ大正十年ヨリ同十三年ニ至ルーケ年平均増加率千人ニ付二十九人ノ割合ヲ正當ト認メ將來ハ千人ニ付キ三十人ノ割合ヲ以テ増加スルモノトセリ而シテ大正十四年九月國勢調査人口新舊町合計二萬四千四百九十一ニ對シ前記ノ増加率ヲ以テ計算セバ大正十四年度末ニ於テハ二萬四千八百五十八人トナル之ヲ基礎トシテ將來ノ人口ヲ算定シ同時ニ總人口ニ對スル給水人口ノ割合ヲ他都市ノ實績ニ照シ推定スルコト左ノ如シ

年 度	人口増加率	總 人 口	給水人口ノ割合	給 水 人 口
大正十四年	0.000	二四、八五六		
同 十五 年	同	二五、六〇四		
同 十六 年	同	二六、三七三	0.000 (給水開始 年)	七、九三三
同 十七 年	同	二七、一六三	0.000	二、六八〇
同 十八 年	同	二七、九七八	0.000	一四、八二八

同 十九 年	同	二八、八二七	0.000	一七、二九〇
同 二十 年	同	二九、六六三	0.000	一九、一九三
同 二十一 年	同	三〇、五七一	0.000	二一、〇九三
同 二十二 年	同	三一、四八九	0.000	二二、六七二
同 二十三 年	同	三二、四〇四	0.000	二四、三三六
同 二十四 年	同	三三、四〇七	0.000	二五、七三三
同 二十五 年	同	三四、四〇九	0.000	二七、一八二
同 二十六 年	同	三五、四一一	0.000	二八、五三三
同 二十七 年	同	三六、五〇四	同	二九、一〇四
同 二十八 年	同	三七、五九六	同	三〇、〇七九
同 二十九 年	同	三八、七二七	同	三一、九八三

尺半(六斗九升)又最大一時間量ノ一人一日分ヲ六立方尺(九斗二升)トスル給水設備トセリ

第三 水源及其水量

曩ニ本町ハ山國川ノ右岸本町字下宮永地先海濱ヲ距ルコト約千二百間ノ地點ヲ水源トセシガ將來渴水ニ際シ鹽分ニ侵サル、恐レナシトセズ因テ今回ハ更ニ同地點ヨリ約三百五十間同川ノ上流松ノ瀬ヲ水源ニ撰ビ其寄洲内ノ浸透水ヲ引用スルコト、セリ

山國川ノ最少表面流量ハ一秒時約百五十立方尺トス而シテ寄洲ハ總テ砂礫層ナレバ其浸透水ノ豐富ナルヲ知ルニ難カラズ一面本町水道最大用水量ハ第二期給水ノ場合ト雖一秒時僅ニ二、五立方尺以内ナレバ前記浸透水ノ一部引用ニテ足ルコト明ナリ且下流ニ灌溉用水ヲ要スルモノナキタメ水利問題紛起ノ煩ナキ自由アリ上流ハ凡テ農村部落點在スルニ止マリ河水ハ殆ンド汚瀆セラル、コトナク大雨時ノ外ハ常ニ清淨ニシテ其儘飲用スルモ不可ナキコト水質試驗成績表ニ見テ明ナリ、サレバ本水源ハ水量水質共ニ眞ニ好個ノ水源ト謂フヲ得ベシ

第四 工事方法

一、取水 場

取水設備ハ本町字下宮永地先松ノ瀬山國川右岸寄洲内渴水線ヲ距ル約十間ノ所ニ内徑二尺長三尺ノ鐵筋混凝土造集水管ヲ流心ニ平行シ延長五十間ニ亘リ水平ニ埋設スルモノニシテコノ集水管周圍ニ穿テタル一尺當リ十個ノ矩形ノ孔(巾二寸長五寸)ヨリ浸透水ヲ集メ導水管ヲ經テ取水唧筒吸水井ニ至ルノ構造ナリ、集水管ノ兩端及中央導水管分岐點ニハ接合井ヲ設ケ施工ヲ容易ニシ且後日ノ修理、擴築ニ便スルト共ニ平常ハ土砂溜ノ用ヲナサシム、管中心高ハ標高以上三尺最大渴水面以下五尺ト定メ周圍ニハ栗石厚一尺五寸砂利厚一尺ニテ包ミ其外側ハ川砂ヲ埋戻シ務メテ清淨ナル水ヲ取ルノ裝置トス

導水管ハ内徑二尺ノ土管ヲ水平ニ延長七十五間敷設ス
接合井ハ内徑四尺深蓋下端ヨリ八尺五寸ノ混凝土造トシ鐵筋混凝土ノ蓋ヲ以テ覆フ其天端ハ寄洲表面以下約一尺五寸トシ土砂浚渫ニ便スルノミナラズ水流ニ浸サル、コトナカラシム集水管埋設ケ所ノ上流ニハ適當ナル制水工ヲ施シ以テ

流心ノ變動ヲ防ギ寄洲内ノ構造物ヲ保護ス

二、取水唧筒場

吸水井ハ鐵筋混凝土造リ矩形ニシテ巾内法六尺長内法九尺深蓋下端ヨリ二十五尺五寸トシ其天端ハ最大洪水面ヲ抜クコト一尺ニシテ尙安全ヲ期スル爲メ鐵筋混凝土ノ覆蓋ニテ密閉ス

取水唧筒ハ各一秒時約一立方尺ノ水ヲ高サ三十五尺ニ揚ゲ得ル電動機直結ノ離心形唧筒三臺ニシテ平常其二臺ヲ使用シ一臺ヲ豫備トス

上家ハ送水唧筒兼用ニシテ梁間五間桁行七間ノ木造平家建トシ將來擴張ニ對シ相當ノ餘地ヲ存セリ

三、濾過池

濾過池ハ其數四ニシテ内一ヲ豫備トシ各五十尺角ノ大サトス而シテ常用ノ濾過面積ハ合計七千五百平方尺ナレバ其濾過速度ヲ一晝夜十八尺トシ一日ノ淨水量十三萬五千立方尺(二萬八百石)ヲ得ベシ濾過層ハ砂利厚一尺二寸砂厚二尺五寸トシ砂面上常ニ四尺ノ水ヲ湛ヘシム

池ハ凡テ鐵筋混凝土造トス底部ニハ「アスファルト」工ヲ施シテ漏水ヲ防ガシメ又出口ニハ節制機ヲ取付ケ濾過速度ヲ調整ス

四、貯水池

貯水池ハ其數二ニシテ各巾三十尺長四十尺ノ矩形トス深サハ上屋下端ヨリ十一尺五寸ニシテ水深十一尺内十尺ヲ有効水深トス二池合セテ二萬二千二百立方尺(三千四百二十石)ノ有効容積ヲ有スルガ故ニ最大一時間給水量ノ三時間分ヲ貯フルコトヲ得ルノミナラズ濾過池ヨリ不斷送水セラル、量ヲモ合セ考フル時ニハ優ニ九時間ノ長キニ堪ヘ得ルモノトス

池ハ凡テ鐵筋混凝土造ニシテ底及上屋ニハ「アスファルト」工ヲ施シ以テ漏水ト浸水ヲ防ギ各池トモ三條ノ環流壁ヲ設ケ淨水ヲ導流セシメ停滯スルコトヲ少ナカラシム且上屋ニ厚二尺ノ土砂ヲ覆ヒ寒暑ノ變ニ當リ淨水ノ冷熱ニ失スルヲ防ガシム各池トモ四ヶ所ヅ、ノ空氣拔ヲ設ケテ空氣ノ流通ヲ良クシ且掃除等ノ場合採光ノ用ヲナサシム

五、送水唧筒場

吸水井ハ鐵筋混凝土造矩形ノモノニシテ巾内法六尺長内法九尺深唧筒室床上端ヨリ十七尺トス
 送水唧筒ハ各一秒時一二五立方尺ノ水ヲ高サ百二十尺ニ揚ゲ得ル電動機直結タービン唧筒三臺ニシテ二臺ヲ常用一臺ヲ豫備トス
 上家ハ取水唧筒室兼用ニシテ將來擴張ニ對シ相當ノ餘地ヲ存ス

六、配 水 塔

配水塔ハ其數一基總高百〇九尺地盤上ヨリ百〇二尺總テ鐵筋混凝土耐震構造ノモノニシテ水槽ハ十二本ノ支柱ニ支ヘラレ内徑二十五尺深覆蓋下端ヨリ二十一尺一寸水深十八尺内常用水深十五尺ニシテ七千四百立方尺(一千四百五十)ノ容積ヲ有シ最大一時間給水量ノ一時間分ヲ貯ヘ得テ送水唧筒ノ調整及停電ノ變ニ備フ水槽最低水位ハ町内中央部ヨリ高キコト約九十尺ナルヲ以テ町内ハ適當ニ水壓ヲ保チ得ベシ
 水槽ハ内面ニアスファルト工ヲ施シテ漏水ヲ防ギ且ツ空氣拔窓及出入孔ヲ設ク基礎ハ鐵筋混凝土ノ杭二百八本ヲ打チ込ミ地震ニ對シ安全ヲ期セリ

七、淨水場附屬鐵管

源水ハ各取水唧筒ヨリ六吋管ヲ以テ出デ十二吋管ニ合シ更ニ十吋管ニ分レテ各濾過池ニ入ル各濾過池ヨリハ八吋管ヲ以テ出デ十二吋管ニ合シ更ニ八吋管ニ分レテ各貯水池ニ至ル又源水清淨ニシテ濾過スルノ必要ヲ認メザル場合ハ取水唧筒ヨリ直接貯水池ニ送水シ得ル様十二吋バイパス管ヲ備ヘリ各貯水池ヨリハ八吋管ヲ以テ出デ十吋管ニ合シ送水唧筒吸水井ニ至ル送水唧筒ヨリハ各八吋管ヲ以テ出デ十二吋管ニ合シ配水塔ニ上リ茲ニ初メテ十二吋管ヲ以テ市内ニ配水サル又送水唧筒ヨリ直接市内ニ配水シ得ル様十二吋バイパス管ヲ設ケ唧筒直送ニヨリ町内ノ水壓ヲ高メ大火ノ變ニ備フ

八、配 水 設 備

配水幹線ハ十二吋管ヲ以テ配水塔ヲ出デ東行シテ縣道(森中津街道)ニ出デ北行鐵道日豊線ヲ横斷シテ國道第三號線ニ出デ東方ニ八吋管ヲ分岐シ本線ハ更ニ西ニ向ツテ十吋管トナリ枝町辻ヲ經テ北行八吋管トナリ鹽町中辻ニ至リ東ニ向ヒ豊後町中ノ辻ニ終ル

配水支管ハ八吋以下三吋管マテヲ適當ニ町内ニ配置スルノミナラズ街又點ニハ防火栓ニ取付ケテ防火ニ備ヘ又要所ニハ排氣瓣、分岐點ニハ制水瓣ヲ設置シ排氣及給水ノ緩急ニ應ジ且ツ所々ニ排水用制水瓣ヲ設ケテ管中ノ掃除ニ備フ

(參考一) 傳染病患者數表 (括弧内ハ死亡數)

年 度	虎列刺赤痢	腸室扶斯	實布亞	痘瘡	チバラス	疫痢	猩紅熱	腦脊膜炎
大正五年度	凝似三(〇)	一				三(〇)		
同 六年度						四(〇)		
同 七年度						凝似三(〇)		
同 八年度						一(〇)		
同 九年度		凝似九(〇)				一		
同 十年度		四(〇)				三(〇)		
同 十一年度	凝似二(〇)	二(〇)				凝似一(〇)		

同 十 二 年 度	同 十 三 年 度	同 十 四 年 度
	五(五)	凝似一(一)
	六(〇)	三(六)
	四(〇)	一

備考 大正四年度以前ハ據ルヘキ簿書發見セサルニ付之ヲ省略ス
大正五年度ヨリ同十三年度ニ至ル分ハ舊中津町ニ層スル分ナリ
大正十四年度分ハ新中津町全部ヲ合算セルモノナリ

(參考二) 井水適否調表

區 域	良	不 良	計	備 考
元 中 津 町	六四二	一、一九三	一、八三五	不良水中濾過又ハ煮沸スル ルハ使用ニ堪ユルモノ一四 一アリ
元 豐 田 村	二三三	二二〇	四五三	
元 大 江 村	八六	一七八	二六四	
計	九六一	一、五九一	二、五五二	

(參考三)

火災取調表

年次	年度	數	燒失家屋	見積損害高
大正十年	度	四	半全燒燒	一、七〇〇
同	十一年度	二	半全燒燒	二、二〇〇
同	十二年度	一	半燒	二〇
同	十三年度	五	半全燒燒	一九、六〇〇
同	十四年度	三	全燒	五、五五〇
同	十五年	二	全燒	一三、八〇〇

中津町水道公債條例

第一條 本公債ハ本町水道敷設ノ經費ニ充ツル爲大正十五年度ヨリ大正十六年度迄ニ金五拾萬圓以内ヲ一回若クハ數回ニ募集スルモノトス
前項公債ノ發行額ハ額面金額百圓ニ付百圓トス

第二條 本公債ノ利率ハ一ケ年ニ付證券額面金額ノ百分ノ八以内トス

第三條 本公債ノ募集ハ特ニ指定シタル銀行又ハ相當ノ資格アル者ヲシテ之ヲ引受ケシムルコトヲ得

第四條 本公債ノ元金及利子ハ町稅給水料國庫補助金縣補助金及雜收入ヲ以テ之ヲ支拂フ但シ他ノ資金ヲ以テ支拂フコトヲ妨ケス

第五條 本公債ノ利子ハ毎年二回ニ分チ各其ノ前六ヶ月分ヲ支拂フ但シ六ヶ月ニ滿タサル期間ニ對シテハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六條 償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後ノ利子ヲ付セス

第七條 本公債ノ元金ハ大正十七年度ヨリ同三十四年度迄ニ別表ノ通抽籤ノ方法ヲ以テ毎年度其ノ一部ヲ償還ス但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 財政上ノ都合ニ依リ三ヶ月以前ニ豫告シテ償還年限ヲ短縮シ又ハ本公債ノ全部若ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

第九條 本公債證券ノ様式ハ無記名利札付トス
第十條 市場ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ大正二十三年度迄ニ償還スルコトヲ得

還スヘキ利率年八分以内ノ短期公債ヲ起シ一時本公債ノ募集ニ代フルコトアルベシ

前項ニ依リ起債シタル短期公債ノ元金ハ本公債條例ニ依リ募集シタル募集金ヲ以テ之ヲ償還シ利子ハ町稅給水料國庫補助金縣補助金及雜收入ヲ以テ支拂フモノトス但シ他ノ收入ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ補充スルコトヲ妨ケス

第九條 前條短期公債償還ノ爲ニ本公債ヲ募集スル場合ニハ第一條ノ募集期間ヲ大正二十三年度迄トス

第十條 本公債ノ元利支拂方法其他本條例施行ニ必要ナル事項ハ町長之ヲ定ム

(別表)

中津町水道公債償還年次表

年次年度	債額	收 入					支 出			差引殘
		町稅	給水料	國庫補助金	縣補助金	雜收入	元金	利子	計	
一	150,000	100	—	500	—	100	—	16,800	16,800	1,000
二	1,100,000	100	—	2,500	200	2,800	—	20,000	20,000	0

三	1,700,000	10,000	6,110	7,000	10,000	—	—	4,110	4,110	10
四	1,800,000	10,000	11,100	7,000	15,000	—	—	4,100	4,100	88
五	1,900,000	10,000	17,000	7,000	15,000	—	—	3,300	3,300	36
六	2,000,000	10,000	20,800	7,000	15,000	—	—	17,800	17,800	26
七	2,100,000	10,000	22,800	7,000	15,000	—	—	18,800	18,800	7
八	2,200,000	10,000	26,700	7,000	—	—	—	14,900	14,900	35
九	2,300,000	10,000	29,700	7,000	—	—	—	18,800	18,800	38
一〇	2,400,000	10,000	31,700	7,000	—	—	—	21,100	21,100	43
一一	2,500,000	10,000	33,700	7,000	—	—	—	23,100	23,100	48
一二	2,600,000	10,000	35,700	7,000	—	—	—	25,100	25,100	53
一三	2,700,000	10,000	37,700	7,000	—	—	—	27,100	27,100	58
一四	2,800,000	10,000	39,700	7,000	—	—	—	29,100	29,100	63
一五	2,900,000	10,000	41,700	7,000	—	—	—	31,100	31,100	68
一六	3,000,000	10,000	43,700	7,000	—	—	—	33,100	33,100	73
一七	3,100,000	10,000	45,700	7,000	—	—	—	35,100	35,100	78
一八	3,200,000	10,000	47,700	7,000	—	—	—	37,100	37,100	83
一九	3,300,000	10,000	49,700	7,000	—	—	—	39,100	39,100	88
二〇	3,400,000	10,000	51,700	7,000	—	—	—	41,100	41,100	93
二一	3,500,000	10,000	53,700	7,000	—	—	—	43,100	43,100	98
二二	3,600,000	10,000	55,700	7,000	—	—	—	45,100	45,100	103
二三	3,700,000	10,000	57,700	7,000	—	—	—	47,100	47,100	108
二四	3,800,000	10,000	59,700	7,000	—	—	—	49,100	49,100	113
二五	3,900,000	10,000	61,700	7,000	—	—	—	51,100	51,100	118
二六	4,000,000	10,000	63,700	7,000	—	—	—	53,100	53,100	123
二七	4,100,000	10,000	65,700	7,000	—	—	—	55,100	55,100	128
二八	4,200,000	10,000	67,700	7,000	—	—	—	57,100	57,100	133
二九	4,300,000	10,000	69,700	7,000	—	—	—	59,100	59,100	138

計	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇
計	二八、二八、九〇〇	二八、二八、九〇〇	二八、二八、九〇〇	二八、二八、九〇〇	二八、二八、九〇〇	二八、二八、九〇〇	二八、二八、九〇〇
長期公債	—	—	—	—	—	—	—
短期公債	—	—	—	—	—	—	—
當該年度收入	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三
雜收入	—	—	—	—	—	—	—
繰越金	—	—	—	—	—	—	—
計	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三	四〇、四三三
短期公債元金	—	—	—	—	—	—	—
長期公債元金	—	—	—	—	—	—	—
短期公債元金	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—
差引額	—	—	—	—	—	—	—
補充支出額	—	—	—	—	—	—	—

備考

- 一、利率八年八分トシテ計上セリ
 - 二、大正十五年度ハ九ヶ月分ノ利子ヲ計上セリ
 - 三、雜收入ハ起債ニ依ル收入金ヲ使用スルニ至ル迄預入ル、モノトシ其利子額ヲ計上セリ明細左ノ如シ
- 十五年度 二八〇、〇〇〇圓ヲ利率年四分ニテ四ヶ月半預入ル、モノトス
十六年度 二二〇、〇〇〇圓ヲ同上ニテ六ヶ月間預入ル、モノトス

(參考ノ一)

中津町水道短期公債起債期間中償還年次表

年次年度	起債額	當該年度收入	雜收入	繰越金	計	短期公債元金	長期公債元金	短期公債元金	計	差引額	補充支出額
一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

計	100,000,000	100,000,000	10,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	100,000,000	100,000,000	10,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000
---	-------------	-------------	------------	------------	-----------	-----------	-------------	-------------	------------	------------	-----------	-----------

備考

- 一、長期公債募集ノ年ハ一ヶ月分ノ利子ヲ計上セリ
- 一、短期公債ノ利率ハ年八分トシテ計算セリ
- 一、當該年度收入欄ハ長期公債ノ償還財源タル町稅給水料國庫補助金及縣補助金ヲ計上シ割書左傍ノ數字ハ長期公債ノ募集金ヲ示ス
- 一、雜收入ハ起債ニ依ル收入金ヲ使用スルニ至ル迄預入ル、モノトシ其ノ利子額ヲ計上セリ（長期債償還年次表備考欄參照）
- 一、補充支出ハ町稅其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

（參考ノ二）

水道敷設事業費收支調

種別	大正十五年度	大正十六年度	計
募債金	280,000	220,000	500,000
一般町費組入	13,100	25,100	38,200
國庫補助金	500	4,500	5,000

中津町水道經常費收支概算表

年 度	收 入	支 出（經常費）	差 引 殘 額
大正一六	646,000	675,000	△ 29,000
一七	362,000	777,000	011,000

縣補助金	雜收入	不用品賣却代	收 入 計	數 設 費	公 債 費	支 出 計
5,000	4,200	1,000	297,800	280,000	17,800	297,800
5,000	4,400	2,000	261,000	220,000	41,000	261,000
5,000	8,600	2,000	558,800	500,000	58,800	558,800

